

京都府埋蔵文化財情報

第118号

平成23年度京都府内の埋蔵文化財調査	岩松 保	1
あかりをつけましょ(下)ー灯火器の実証実験ー	牧田梨津子	7
平成23年度発掘調査略報		11
11. 門田遺跡		
12. 植物園北遺跡		
研究ノート 桂川右岸地域における古墳時代集落の動向(3)	古川 匠	13
長岡京跡調査だより・114		35
普及啓発事業		37
組織及び職員一覧		39
センターの動向		40

2012年8月

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

平成23年度京都府内の埋蔵文化財調査

岩松 保

平成23年度は、第二外環状道路関係遺跡の発掘調査がほぼ終了を迎え、代わって新名神高速道路関係遺跡の調査が本格化した。府内では、京都市以南での調査が多く実施されている。以下、当調査研究センターの調査成果を中心に、府内各地域の調査成果を概観したい。文末の()内に調査組織を記している。

〈丹後地域〉

宮津市^{なんばの}難波野遺跡では、平成21年度から範囲内容確認調査を実施している。小規模な6か所のトレンチ・グリッドを遺跡の北半部に設けた結果、古墳時代の竪穴建物・柱穴・土坑、平安時代後期～中世の柱穴・礎石などが確認された。遺跡の範囲はさらに北側に広がる可能性が考えられている。なお、国道178号線バイパス工事に伴う調査で確認された方形貼石墓の規模を確定するためトレンチを設けたが、新たな知見は得られなかった(宮津市教委)。

与謝郡与謝野町^{ことうげ}小峠古墳群では、2・3・5・6号墳が調査された。2・3号墳は墳丘を確認しただけで、5・6号墳では木棺直葬の主体部を確認した。5号墳は直径15mの円墳で、2基の主体部をもつ。主体部には、全長4.3mの舟形木棺、全長2.0mの組合式木棺が設けられていた。6号墳は直径約16mの円墳で、長さ5.2mの墓壇内に全長4.3mの舟形木棺の痕跡を確認した。出土遺物より、6世紀前半の年代観が与えられる(与謝野町教委)。

与謝野町^{いしだに}石田谷古墳群の周辺では試掘調査が行われた。5か所にグリッドを設けて調査したところ、奈良時代～中世の多量の土器片と溝状の遺構を確認した。周辺に同時期の集落跡が分布しているものと推定された(与謝野町教委)。

〈中丹・南丹地域〉

福知山市ゲシ山古墳群では、平成16年度に3号墳が調査されており、主体部1基を確認していた。今回はその西側の調査を行い、新たな主体部を1基検出した。主体部の床面には礫床が設けられており、礫床の下には墓壇の長軸方向に排水溝が1条掘られていた。4世紀中葉～5世紀中葉(福知山市教委)。

船井郡京丹波町^{さんのみやひがしじょう}三ノ宮東城跡は、比高50mの尾根上に位置する16世紀前半頃の城跡である。山城は6つの曲輪からなっており、曲輪からは礎石建物や石積土坑、石列を検出した。斜面部では竪堀や切岸、各曲輪を結ぶ通路や護岸の石積、排水溝を検出した。戦国時代の山城は非常時に用いられたとされているが、恒久的な建物である礎石建物を検出したことから、日常



京丹波町三ノ宮東城跡全景（北西から）

的な生活が営まれていた可能性がある(当センター)。

南丹市^{のじょう}野条遺跡では、第19～21次調査が実施された。一連の調査により、弥生時代後期の溝や古墳時代後期の竪穴建物、奈良時代～平安時代の建物群などを検出した。弥生時代後期の溝は周辺の水田に灌漑することを目的に掘削されたと推定される(府教委・南丹市教委・当センター)。

亀岡市^{あまるべ}余部遺跡第10次調査では、弥生時代後期の竪穴建物3基、古墳時代中期末の竪穴建物1基・溝、中世の溝を検出した。後期の竪穴建物からは土錘28個がまとまって出土した(亀岡市教委)。

亀岡市^{てんがわ}天川遺跡では、自然流路跡より縄文時代中期末から中世にかけての土器が多量に出土し、これらの時期の集落が周辺に分布しているものと推測される(亀岡市教委)。

〈京都市域〉

京都市域では、多数の調査が行われたが、ここでは主要な調査を概観する。

上京区^{へいあんきょう}平安京右京三条一坊六・七町の調査では、三条坊門小路の南・北側溝と七町側の内溝、平安時代前期の掘立柱建物や南北方向の廊、池状遺構を検出した。廊の下には溝が掘られており、この溝から池に水を引いたと推定されている。調査地は平安時代前期の公卿、藤原良相の西三条第・百花亭の推定地で、平安時代中期には大江公仲の宅地となっていた。「三条院釣殿高坏」、「政所」と記した墨書土器が出土しており、池や建物跡との関連が注目される(市埋文研)。

上京区^{しょうこうじ}相国寺旧境内・^{かみぎょう}上京遺跡は、同志社大学烏丸キャンパス新校舎建設に伴う調査である。室町時代(14～15世紀)の遺構では、柱穴・ゴミ捨て穴・地下蔵・井戸・墓などが調査区全域で検出され、相国寺の塔頭に関係する施設が広がっていたと考えられる。また、戦国時代(15世紀末～16世紀)の遺構として、幅3m、深さ2m前後で、断面逆台形を呈した堀が、南北・東西・斜め方向に掘られていた。これらの堀は重複しており、頻繁に掘りなおされたと推測される。これらが造られた時期には天文法華の乱(天文5年：1536年)が起きていることから、町を防御するために堀や柵が造られたと判断される(市埋文研)。

東山区^{ろくはせいちょう}六波羅政庁跡・^{ろくはらみつじ}六波羅蜜寺旧境内の調査では、室町時代の門・築地(塀)・柱穴・溝・土坑などを検出した。これらの遺構の多くは六波羅蜜寺に関わる遺構と考えられ、室町時代の六波羅蜜寺境内の北西隅にあたるものと推定される(市埋文研)。

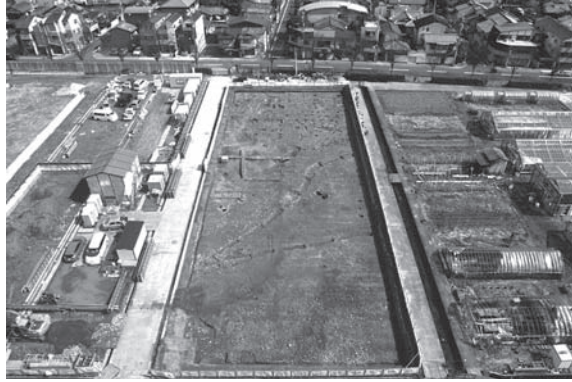
山科区の^{やましなほんがんじ}山科本願寺跡では、第16次調査が行われた。調査により、土塁、通路状遺構、石組み溝を検出した。石組み溝は約14mの長さにわたって検出され、石の用い方が部分的に異なることや屈曲・斜行することから、庭の一部を構成していたと推定された。周囲には柱列や礎石があることから、建物と建物との間に造られた坪庭としての空間であったと推定された(市埋文研)。

東山区の^{ほうじゅうじどの}法住寺殿跡では、法住寺殿内に造られた最勝光院にあたる位置を調査した。調査では、最勝光院の造営に伴う整地土(最大厚さ1.9m)と建物地業と、造営に伴って埋められた濠を検出している(市埋文研)。

東山区の^{きよみずでら}清水寺旧境内では、現本堂の礎石の据え付け方や地業のあり方、地下遺構の残存状況を確認するために調査を実施した。調査の結果、3面の焼土層と3層の整地層を確認した。出土

遺物から、14世紀中葉以後の焼土層・整地層と判断された。また、本堂の中央部には谷状の地形があり、ここを整地して礎石を据えていることが判明した。遺物としては、18世紀前半の西国三十三所の巡礼札が出土した(当センター)。

左京区の^{しよくぶつえんきた}植物園北遺跡では、奈良時代～平安時代の掘立柱建物、竪穴建物、土坑などのほか、飛鳥時代～奈良時代の土器棺墓を検出した(当センター)。



京都市植物園北遺跡空中写真（西から）

〈乙訓地域〉

乙訓地域では、長岡京跡の調査を中心に、長岡京市・向日市・大山崎町教育委員会ならびに長岡京市埋蔵文化財センター、向日市埋蔵文化財センター等で多くの調査が実施された。以下、顕著な成果を得た調査を中心に報告する。

向日市^{もといなり}元稲荷古墳第8次調査では、前方部西南側の状況と前方部の形状を把握するために調査が行われた。調査の結果、前方部の形状は「バチ形」ではなく、くびれ部から直線的にひらいていることが確かめられた。奈良県桜井市箸墓古墳の「モデルプラン」をもとに、天理市西殿塚古墳における墳丘構築の技術が用いられたものと推定された(向日市埋文)。

向日市の^{ながおかきゅう}長岡宮跡第483・485次調査では、礎石建物1基、足場遺構等を確認した。礎石建物は南北棟と推定されるものである。礎石建物の礎石は遺存していなかったが、根石掘形が一辺1.7mと大きなもので、柱間は身舎の桁行14～15尺、梁行10尺、廂の出が9尺・10尺である。柱間が大極殿・後殿に次ぐ規模を有すること、立地が大極殿の北方300mと宮の中心部にあたることから、天皇に関わる儀式・饗宴が執り行われた施設と考えられる(向日市埋文)。

長岡京市の^{ながおかきゅう}長岡京跡右京第1019次調査では、長岡京期、平安時代から江戸時代にいたる各時代の遺構を検出した。調査地は長岡京の右京八条二坊七・八町にあたり、西一坊坊間東小路と八条条間小路の位置にあたるが、条坊遺構は確認できなかった。しかし、掘立柱建物・柵列・溝・井戸を検出したことは、長岡京域南部における土地利用を検討する上で重要な知見となった。平安時代では、掘立柱建物や井戸などを検出した。東方約200mの久貝遺跡は第3次山城国府の候補地の一つとなっており、当該期の遺構群は、それとの関連が窺えるものである。戦国期の堀は、幅4m、深さ2mの規模で、総長49mを検出した。山崎の合戦(1582年)の際に、明智光秀が豊臣方の軍勢を迎えるために設けられたものと推定されている(長岡京市埋文)。

長岡京市の^{ながおかきゅう}長岡京跡右京第1034次調査は、右京五条三坊三町にあたり、開田城ノ内遺跡にも含まれる。調査により、中世から近代の水田耕作に伴う溝群、長岡京期の溝・掘立柱建物・土坑など、奈良時代の掘立柱建物・溝・土坑、古墳時代後期の竪穴建物を検出した。長岡京の一町内に設けられた宅地割りの溝を検出し、都における宅地配分を検討する上で重要な知見となった(長岡京市埋文)。

長岡京市の^{いげのやま}恵解山古墳第12次調査では、前方部西側面に取り付く土手の構築状況と、周濠の西側に設けられている里道および水路(池)が構築された状況を明らかにするために調査した。土手の下部には、土手構築以前(近世以降か)の畦畔および耕作土が埋もれており、墳丘側面の大規模な改変が行われた後に耕地として利用され、その後、耕地の畦畔を覆うように土手が築かれたことが明らかとなった。水路の掘削時期は明らかにできなかったが、里道については近代以降に構築された可能性が認められた。里道の東側では、恵解山古墳の平坦な周濠底部が西側に向かって緩やかに立ち上がる状況を確認することができた(長岡京市埋文)。

大山崎町の^{とりいまえ}鳥居前古墳では、くびれ部から後円部にかけての段築のあり方を明らかにする目的で、墳丘東側の調査が実施された。調査の結果、後円部は集落から見える東側が4段築成であることが判明し、西側より1段多いことが明らかとなった(大山崎町教委)。

京都市西京区の^{しょうじじ}勝持寺旧境内の第二外環状道路関係の調査では、鎌倉時代(13世紀)から室町時代後半(15世紀後半)にかけての石垣・石塁・造成平坦面、柱穴や土坑・溝を検出した。勝持寺所蔵の中世段階の絵図には、49を数える子院が建ち並んでいた様子が描かれているが、応仁の乱により多くが焼失した。検出した遺構はこういった子院の一つと考えられ、室町時代後半(15世紀後半)の石垣・石塁の検出例はほとんどなく、石垣構築の技術系譜を考える上で貴重な成果である(京都市埋文研)。

長岡京市^{ながおかきょう}長岡京跡右京第1024次調査は、当調査研究センターが長岡京市内で実施している第二外環状線道路関係の調査である。下海印寺西条地区、川向井地区および奥海印寺荒堀で調査を実施した。西条地区では、過去の調査で古墳時代の竪穴建物や平安時代中期から中世にかけての館跡等を確認していたが、小規模の調査であり、顕著な遺構は確認できなかった。川向井地区では、近世以前の旧小泉川の堆積砂礫を確認しただけである。奥海印寺荒堀では府道付け替えに伴う調査で、掘削深度内には遺構・遺物を確認することができなかった(当センター)。

京都市伏見区で実施した^{ながおかきょう}長岡京跡左京第547次調査は、長岡京の条坊復原では左京九条二坊二・三町にあたる。調査地は現代の盛土が厚くなされており、地表下約6mまで掘削を行ったが、顕著な遺構遺物は確認できなかった。土層の堆積状況から、淀川に近接して形成された湿地または荒蕪地であったと推定される(当センター)。



大山崎町長岡京跡右京第 1023 次・松田遺跡
ベッド状遺構を有する八角形の竪穴建物（西から）

大山崎町の^{ながおかきょう}長岡京跡右京第1023次・^{まつだ}松田遺跡の調査では、弥生・古墳時代の竪穴建物と奈良時代末から平安時代初頭の掘立柱建物・溝などの遺構を検出した。弥生時代後期の遺構として、平面形が八角形でベッド状遺構を有する竪穴建物を検出した。古墳時代後期では4基の竪穴建物を検出した。緑色凝灰岩・鍛冶滓・フイゴ羽口が出土していることから玉作り工房、鍛冶工房が近くに存在していた可能性がある。奈

良時代末～平安時代初頭の遺構は、今回の調査地の南側でも確認している。これらの遺構群は、広範囲に分布しており、ほぼ南北方向に造られていること、規模も大きく、瓦が出土していることから、一般の宅地とは考えにくいものである。周辺の調査結果より長岡京の京域がこの地域まで整備されていた可能性は低く、離宮や貴族の別邸、山崎津に関係した施設、平安時代に「長岡京南」へ移された第3次山城国府に関連した遺構などの可能性が想定される(当センター)。

長岡京市で実施した^{ながおかきょう}長岡京跡右京第1031次・^{かいでん}開田遺跡・開田古墳群の調査では、東端で南へと屈曲する古墳時代の東西方向の溝を検出した。この溝は、南側の右京第995次調査で検出した溝 S D 301 に続くものと考えられ、一辺14mの方墳に復元できる。この方墳は、開田古墳群の中の東羅支群に属するものと判断され、同支群はこれまでに11基が確認されている(当センター)。

大山崎町の^{ながおかきょう}長岡京跡右京第1027次・^{まつだ}松田遺跡では、中世居館を検出した右京第997次調査の南側の調査地で、東西方向の柵列に連なる柱穴と、その南で柵列に平行する素掘り溝を検出した。この溝の南側に遺構が分布しないことから、居館の南を限る溝と推定された(当センター)。

大山崎町の^{やまざきのつ}山崎津跡では、淀川右岸河川敷内で調査を実施した。山崎津は奈良時代から平安時代にかけて多くの物資が集積した港である。各調査トレンチでは、厚く砂礫の堆積が認められただけで、顕著な遺構は確認できなかったが、土師器・須恵器・緑釉陶器・瓦や磁器などの土器類が多量に出土した。これらの遺物は、中世を中心に奈良時代のものがあり、ほとんど摩滅していないことから、付近に集落あるいは港(津)に係わる施設があったものと推測される(当センター)。

〈南山城地域〉

八幡市の^{きつがわかしょう}木津川河床遺跡第22次調査では、桂川左岸の河川敷内で調査し、人頭大から掌大の平らな割石が貼り付けられた状態で検出された。出土遺物には江戸時代の陶磁器類がある。貼り石遺構には、溝状の構造や直線的な区画が見て取れる(当センター)。

新神関係遺跡では、八幡市・京田辺市・城陽市で調査を実施した。八幡市の^{みのやま}美濃山廃寺・美濃山廃寺下層遺跡では、ほぼ全域の調査を実施した。調査により、30棟以上の掘立柱建物や金属製品を生産・加工していた工房、瓦窯を検出し、須恵器・土師器・奈良三彩や瓦・埴・埴仏・ひさご形土製品・覆鉢形土製品が出土している。これらは飛鳥時代後半(白鳳期)から平安時代前期のものである。瓦は、八幡市西山廃寺・志水廃寺、枚方市九頭神廃寺・百済寺跡などの寺院跡、恭仁宮や平城宮といった都城から同じ



八幡市木津川河床遺跡張り石状遺構(北西から)



八幡市美濃山廃寺・美濃山廃寺下層遺跡全景(東から)



八幡市美濃山廃寺・美濃山廃寺下層遺跡出土
ひさご形土製品

文様のものが出土している。また、埴・埴仏・ひさご形土製品・覆鉢形土製品や鉄鉢形須恵器などの出土遺物は仏教的な様相を示しているが、塔や金堂といった礎石立ちの建物は確認できず、従来の古代寺院とは異なる姿であったと考えられる（八幡市・当センター）。そのほか、新名神関係遺跡では以下の遺跡を調査した。八幡市の^{あらか}荒坂遺跡では顕著な遺構は確認できなかった。京田辺市の^{かどた}門田遺跡では中世段階の遺物包含層を広範囲に確認し、部分的に同時期の掘立柱建物や溝、井戸を検出した。^{にしむら}西村遺跡では中世段階の畑跡遺構を、^{まついおうけつぐん}松井横穴群では横穴を、^{むかいだに}向谷遺跡では古代～中世の包含層を検出した。城陽市の^{みずしじんじゃひがし}水主神社東遺跡では、中世の水路跡を検出した。これらは来年度以降にも引き続き調査を実施していく予定である（当センター）。

宇治市の^{あさくら}旦棕遺跡・旦棕古墳群の調査では、直径20mの円墳1基と飛鳥時代の竪穴建物6基を検出した。竪穴建物は古墳を壊して造られていることから、旦棕遺跡周辺の開発が進められた結果、古墳を壊さざるを得なかったと考えられている（宇治市）。

京田辺市の^{こうど}興戸遺跡第17次調査では、奈良時代の古山陰・山陽併用道と平行する溝や柱穴群を検出した。近辺に公的な施設が想定されているが、今回の調査で布目瓦や灰釉陶器などが出土しており、関連する資料といえる。古墳時代の流路から土器がまとまって出土した（当センター）。

精華町の^{むくのき}棕ノ木遺跡第10次調査では、平安～鎌倉時代の耕作関係の遺構、古墳時代の遺構・遺物を検出した。古墳時代では、中期末の古墳を新たに2基確認し、総数8基の古墳を確認したこととなる。古墳は木津川の自然堤防上に築かれていることから、木津川の水運に携わった人物に関係する古墳であり、周辺には同時期の集落が分布しているものと想定される（当センター）。

木津川市の^{つばい}椿井遺跡第5次調査では、近代の土取り穴と竹藪造成に伴う盛土を確認しただけで、顕著な遺構・遺物はなかった。ただし、古墳時代の遺物がわずかに出土したことから、周辺に分布する松尾古墳群を構成する古墳がこの地に存在していた可能性が認められる（当センター）。

木津川市では、国の特別名勝・史跡の^{じょうるりじ}浄瑠璃寺庭園の発掘調査を実施した。調査は3か所で実施し、池の周囲から、江戸時代の護岸や園路を広げた痕跡を検出した。江戸時代に、池の周囲を回遊する現在の庭園の様式に整備したと推定された（木津川市教委）。

木津川市の^{くにきゅう}恭仁宮跡では、大極殿南面回廊の位置を確定することを目的に調査が実施された。平成22年度の調査では、朝堂院の西辺を区画する板塀が北側で途切れる位置で東西に延びる柱穴列2基を検出しており、この位置に大極殿南面回廊が位置する可能性が指摘されていた。この西側および北側にトレンチを設定したが、大極殿院に関連する遺構は確認できなかった（京都府教委）。

（いわまつ・たもつ＝当調査研究センター調査第2課調査第2係長）

あかりをつけましょ（下）

－灯火器の実証実験－

牧田梨津子

5. 実証実験

奈文研の先行実験は、灯火の時間と油の量を測定した後、露胎の変化及び痕跡を確認するためのものであった。そのため本実験は、点火や灯芯の関係だけでなくそこで発生する要素について確かめるためのものである。

使用器材は、市販の口径12cmのすり鉢^(注7)(外面にのみ釉薬のかかったもの)と、800度で焼成された碗や皿^(注8)を使用した。また油は市販の純正胡麻油を使用した。

灯芯の有無 よく灯火の始まりとして、油に灯芯を用いずに直接火を灯したとされる。漠然とそう思われているのだろうか、根拠は不明である。実態はどうであっただろうか。

灯芯のないまま火を油に直接当てて点火を試みた。1分以上燃焼部を油にあてたが、着火しなかった。そもそも油の発火温度は、日清オイリオのホームページ^(注9)の大豆油を使用しての実験によると250度で発煙点、316度で引火点、そして340～370度で発火点に至るという。油の温度を300度以上にわざわざしてまで、直接火をつける必要があるとは考えられない。それよりは灯芯を使ったほうが効率的、かつ安全である。そのため、油に直接火をつけたとは考えられない。やはり灯火に灯芯は不可欠な要素である。

灯芯に使用した材料 市販されている麻紐を灯芯にして点火を試みた。10cm程度の麻紐を、口縁部から燃焼部となる灯芯の先端が外に出るように入れて点火した。しかし、10分で自然に鎮火^(注10)してしまった。同様に綿花をこよって作った10cm程度の綿の紐を使用して点火した。しかし、こちらも麻紐同様すぐに消えてしまった。

これを解消するには、点火前に灯芯全体を数十秒から1分程度油に浸すことが必要である。また、燃焼部が油から離れた状態ではすぐに鎮火してしまった。そのため、燃焼部は油から離れない位置にあったといえる。つまり、灯芯を長く引き出して使うのは長時間の使用に耐えない。また、油に近い位置にあると燃焼部から油が気化するため、長時間の灯火が可能になる。

これまであげた灯芯は植物性であるが、動物性の絹の布を灯芯にして点火を試みた。5mm程度の幅で10cm程度の長さに切って油に入れた。前述と同様の実験を行なった。しかし着火しなかった。それは、手芸用の絹糸を使用しても同様であった。またどちらの場合も着火しないばかりか、溶けて切れてしまう。あるいは完

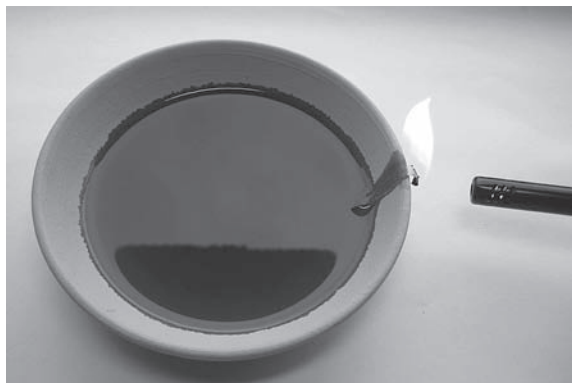


写真2 点火実験（灯芯に絹を使用）

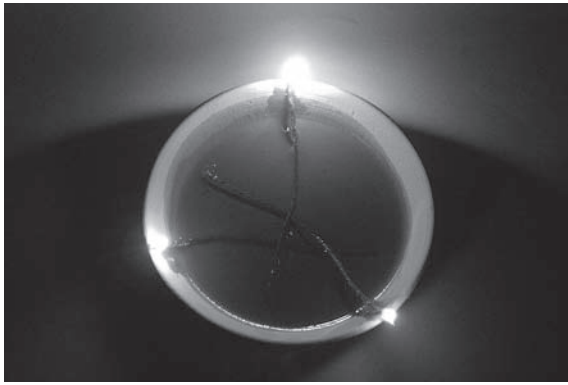


写真3 灯芯3本による実験 (①点火直後)

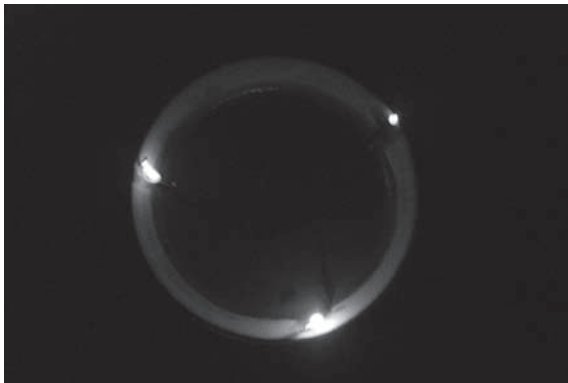


写真4 灯芯3本による実験 (②数分後)

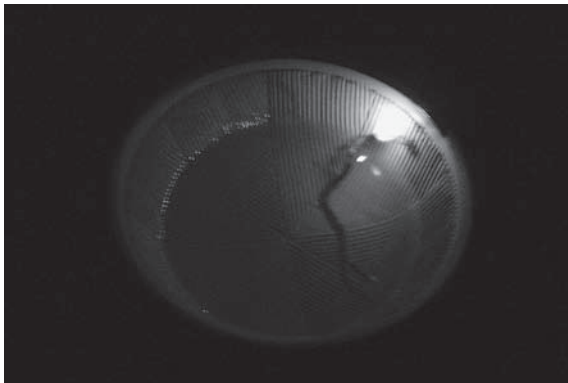


写真5 灯芯置実験 (①不使用)

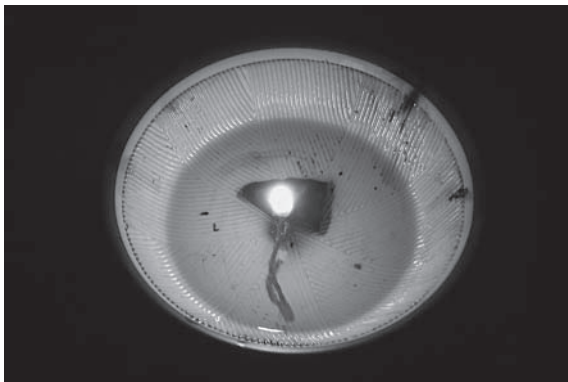


写真6 灯芯置実験 (②使用)

全に溶けて煤になってしまった。

以上のことから、絹の使用は現実的に不可能であったと思われる。したがって、「燈炷布」は動物性の絹でなく、植物性のカラムシなどの布を灯芯として使用したといえる。

灯芯の数と光量 平城京二条大路濠状遺構SD5100や京都府馬場南遺跡などで3つ以上の灯芯の痕跡を持つ土器が出土している。これまで器ひとつに灯芯ひとつで行ってきた結果、手元程度しか見えなかった。そのため、採光しやすくするために灯芯を3つに増やしてみた。

結果は、口縁部に燃焼部が接触すると数分で自然に鎮火してしまう。同時に燃やし続けるには灯芯を引き出す、油を追加するなどの手入れが頻繁に必要な。かえって大変になり、ただ明るくなるというわけではない。非効率的である。

灯芯置 先の奈文研の報告でも油の痕跡のみの土器があった。器に灯芯痕を残さないようにするために灯芯置を設置した。これは、前述した韓国の扶余地域^(注11)で出土する内部に灯芯置を形成する形態に激しく油煙が残存するものがあるためである。しかし、同形態である大阪府陶邑TK321号窯出土の灯火器は、日本国内での個体の出土例がこのほかほとんどないため普及は認められない。そのまま灯芯置が内部にない容器を使用し続け、拾った小石を入れて実験を続けた。灯芯を油に浸してから小石に立てかけて点火した。

内部に灯芯置を設置したほうが採光しやすく火が安定した。また、3時間以上手入れをせずに点火し続けたが鎮火しなかった。そして、灯芯置を使わずに採光するよりも遥かに明るかった。

この実験で、灯芯置を設置した場合頻繁な手

入れを必要としなくなるという利点がわかった。しかし一方で、口縁部に変化が起きにくくなるということは、観察が難しいことを意味している。

手燭 手元を見る手燭にも使用できるのか、器を平らな盆の上に乗せて点火してから動かしてみた。灯芯置なしでは灯芯が動きやすく、燃焼部が油に沈むと鎮火してしまうことがわかった。もちろん水ではないのですぐに再点火できる。灯芯置を設置した場合では、灯芯が動きにくくなるため油に沈みにくくなり火は比較的安定した。そのため、動かして使うことも不可能ではないことがわかった。

あかりのかおり 実験の最後に灯火の際に必ず伴う、においについて述べておきたい。油について、筆者は食用胡麻油を使ったこともあり、器に入ただけで香りが強いように思われた。しかし、好みはあるが焼肉屋のにおいに比べると、匂いはほのかで鼻を射るような不快感はなかった。市販で太白^(注12)といわれる白色系無色の胡麻油がある。この太白を使用するとさらに匂いはほのかになる。

灯芯の素材については、植物性と動物性の決定的な違いはかおりにも現れている。植物性はかおりがほのかであるのに比較して、動物性はほんの少し火にさらしただけで強烈な悪臭を放った。室内で10分程度点火を行なっただけで、窓を開ける程度では済まないほどであった。

6. 実験まとめ

以上の実験から、あかりをつけるには灯芯が不可欠な要素であることが分かった。また、その灯芯は植物性であること。はじめて使うときは油に浸してから点火すること。灯芯は複数あると明るくはなるが、非効率的であること。

灯芯置を設置すると、手間がかからずに長時間あかりを手に行なうことができる。また、多くの光量を得ることができる。そして、手燭とする場合は灯芯置を使用することもわかった。

この成果によって油による灯火は、その始まりから灯芯が使用されていたことがわかった。また、むやみに灯芯の数を増やしてもただ明るくなるものではなく、手入れが多く必要になることもわかった。それを解消するために、灯芯置を設置することが有益であり、手燭などの用途も広がるということが明らかにできた。

そして、灯火の痕跡は決して黒色の煤と油煙だけではないといえる。油が高温になることによって発生するピンク色のリング状の斑紋である。その一方で、そもそもその痕跡が残らないものもあることがいえる。灯芯置を使用して見て、痕跡を残さないほうがあかりは得やすかっただろうことも想定できる。

実験を行ってきて、注目したいことがある。当初器は、すり鉢を使用した後に露胎の皿を使用した。それによって油のしみこみの速さを目の当たりにした。油を器に多く入れすぎると漏れてしまう。しかし、ある程度の量を入れないと器の口縁部がその光を阻害してしまう。これは、浸透圧の問題から灯火にちょうどいい油の量というのがあり、器の形も灯火専用のものが存在していることが指摘できる。

7. おわりに

奈良時代には夜を照らすものが存在していたことが文献や遺物からわかっている。奈文研の実験は中でも天皇の常灯にかかわる実験であった。今回の実験は、飛鳥時代から延喜式(平安時代)までの文献をもとに行った油による灯火の実態にせまったものである。

燃灯供養を行なったとみられる痕跡は、馬場南遺跡のほかに東大寺法華堂前、二条大路南側濠状遺構SD5100などで検出されている。「はじめに」で述べたように、灯明という言葉は多分に宗教的意味合いをもっている。そのため、照明などの生活機器としての性質を述べるために燭台などを含めて灯火器とし、点火し続けることを「灯火」と記載した。また、一般的な通称であることから、油を使用した灯火を行う際に使用した器のことを灯明皿と記載した。

電気などのあかりになれた現代人にとっては、油による灯火は決して明るいものではない。しかし、月明かりが頼りであった時代の人たちにとって、このあかりは決して暗いものではなかっただろう。また、奈良時代高価だった油を使用して、少しでも多くのあかりをとるために苦心していたに違いない。

そして、植物性がいかに快適にあかりを提供してくれるかということがわかった。これは、仏教の殺生の禁止からきているだけではないことが指摘できるだろう。かおりは供養の際に灯明とともに焚かれる香に通じる。また植物性の油はインドでアーユル・ヴェーダに使用され、西洋ではアロマテラピー効果もあるとされている。奈良時代の高級品であった胡麻油のかおりと、そこからとるあかりは、宗教的な意味合いだけでなく珍重されていただろう。

謝辞

今回の実験に際し、清水焼団地協同組合村田哲子氏の協力により、清水焼団地のみなさまから素焼きの器を譲っていただきました。記して感謝を申し上げます。

(まきた・りつこ＝当調査研究センター調査第2課調査第1係調査員)

注7 当初素焼きの器が手に入らなかったため

注8 碗は一次焼成されたごはん茶碗。皿は、轆轤引きのものを清水焼団地に無償で提供していただいた。

注9 日清オイリオのホームページ『http://www.nisshin-oillio.com/q_a/3_q8.shtml』2010年12月19日閲覧

注10 木綿は延暦18(799)年に昆崙人(マレー人か?)によってもたらされ、翌年には栽培が奨励された。しかし普及は中世以降である。この実験は奈文研の先行実験にあわせた。

注11 王宮の遺構である官北里遺跡などで出土している。

注12 太白は、原料である胡麻を煎らずに圧搾した油。ほかの実験では煎ってから圧搾したものを使用した。

〈参考文献〉

奈良県教育委員会『東大寺防災施設工事・発掘調査報告書 発掘調査篇』東大寺 2000

(他前号を参照のこと)

11. 門田遺跡

所在地 京田辺市大住門田他

調査期間 平成23年11月17日～平成24年3月7日

調査面積 4,350㎡

はじめに 門田遺跡は府道八幡木津線と防賀川周辺までの間にある遺跡である。これまでの発掘調査で飛鳥時代から鎌倉時代にかけての集落跡であることが確認されている。

今回この地に新名神高速道路の計画がなされたので、事前に発掘調査を実施した。調査前の状況は田畑および荒地であった。

調査概要 事業対象地内に10か所の調査地を設定し、発掘調査を実施した。橋脚予定地とため池予定地が調査か所である。基本的な層序は耕作土(30～40cm)、灰白色砂層(10～30cm)、青灰色粘質土(40～50cm)、青灰色粘土である。青灰色粘質土の上層は江戸時代であるが、下層は室町時代であった。東からⅠ区、西側へ順次Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ区と命名した(図の中央がⅡ・Ⅲ区である)。

Ⅰ区では遺構の兆候は希薄であった。中世の瓦器碗や土師器皿が少量出土した。Ⅱ区でも遺構の兆候は希薄であった。自然の窪地であったと判断する。Ⅲ区の1トレンチでは、南部で柱穴跡、溝跡を検出した。また、これと重複して砂脈が北西から南東にかけて確認された。これは、伏見城天守閣が倒壊した慶長の伏見大地震(1596年)に対応すると考える。調査地からは中世の瓦器碗や土師器皿が出土した。南西部でやや黒色に変化した地点があり、ここで弥生土器が出土した。遺構に伴うものではない。Ⅲ区の2トレンチでは、中世に埋没した川(NR1)を確認した。幅は



調査地位置図(国土地理院 1/25,000 淀)

2～3mである。中世の瓦器碗・鍋・羽釜・土師器皿などが多量に出土した。Ⅳ区の1トレンチでは、南部で柱穴跡、溝跡、井戸跡を確認した。井戸は直径1m強の円形の石組みのものである。

まとめ 調査地の東部では、中世の遺物包含層を確認したが、遺構の兆候は希薄であった。

調査地の中央は洪水層や窪地があり、遺構の兆候はなかった。調査地の西部では中世の集落跡の一部を確認した。さらに、西側に広がっているため、今後確認する必要がある。

(伊野近富)

しよくぶつえんきた 12. 植物園北遺跡

所在地 京都市左京区下鴨半木町

調査期間 平成23年11月25日～平成24年3月5日

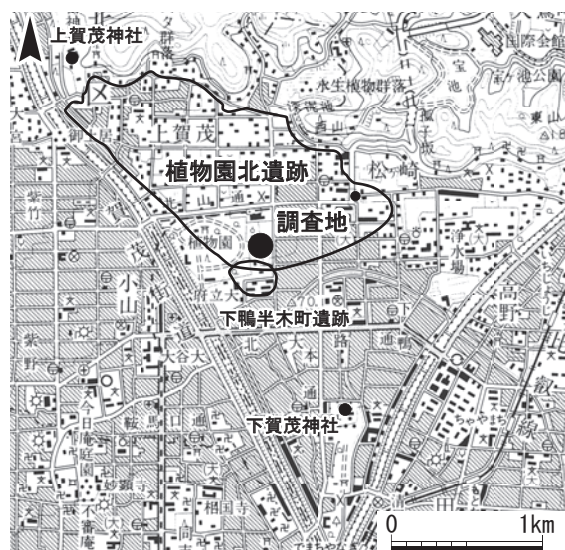
調査面積 2,200㎡

はじめに 今回の発掘調査は、新総合資料館(仮称)・教養教育共同化施設(仮称)整備事業に先立ち実施した。当遺跡は、古墳時代前期を中心とした北山城最大級の集落遺跡として知られる。調査地は遺跡南部にあたり、独立行政法人京都府立大学の農場内を対象としたものである。北部隣接地の過去の調査では、主に奈良時代～平安時代の掘立柱建物群や竪穴建物が確認されている。

調査概要 南北2か所の調査区を設定した。1区では、上層および下層の2層の遺構面を確認した。上層は、北部では削平を受けていたが、南部では中世後期と推定される2条の溝を確認した。また下層では、主に方形柱穴の並びをもつ掘立柱建物6棟以上を検出した。これらの建物はほぼ正方位に沿った東西棟であり、柱穴を重複して検出したことから、建て替えが行なわれたとみられる。柱穴から出土した土器から、時期は奈良時代後半を中心とするものと推定される。

2区では、竪穴建物1基や掘立柱建物10棟、土器棺2基、土坑等を検出した。方形掘形をもつ掘立柱建物群は、2間×3間以上の規模をもち、ほぼ正方位に主軸をもつ。柱穴群から出土した土器から、主に奈良時代～平安時代前期に帰属することが判明した。竪穴建物は、正方形の平面形をもち、一辺約2.3mを測る。床面には、粘土による貼り床を施す。焼土坑から鉄製品の一部や細かな鉄片が出土し、緑釉陶器やその素地などを伴うことから、工房的な性格をもつものとみられる。出土土器から、9世紀前半の竪穴建物であることが判明した。さらに2区では、奈良時代～平安時代前期の溝2条のほか、飛鳥時代末～奈良時代初めの土器棺墓を検出し、土採り穴とみられる鎌倉時代以降の大形土坑を検出した。

まとめ 今回の調査では、おもに奈良時代～平安時代前期にかけての遺構群を検出した。調査地周辺には東は丹波日本海側へ通じるかつての鞍馬街道が隣接し、また上賀茂神社と下鴨神社が近在する。今回の遺構群の時期は、下鴨神社が上賀茂神社から分立し、両社が国家的祭儀に関わる重要な時期にあたり、この時期に主要な交通路に沿って、周辺地域が、大きく開発されたことが明らかになった。平成24年度に継続調査を実施し、2か年の調査成果を合わせ、遺構群の性格を明らかにしたい。(高野陽子)



調査地位置図

(国土地理院 1/50,000『京都東北部』に一部改編)

桂川右岸地域における古墳時代集落の動向（３）

古川 匠

6. 向日市南部・長岡京市東北部の様相（第3図）

内裏下層遺跡では弥生時代後期末(庄内式期前半)に、竪穴建物、方形周溝墓などで構成される集落が形成される。この集落は短期間で断絶するが、古墳時代中期中葉になると、初期須恵器、韓式系土器の伴う、竪穴建物や掘立柱建物などから構成される新たな集落が形成される。当該期の埴輪が出土することから、集落近辺には墓域が形成されるようである。その他の出土遺物を見ると後期の円筒埴輪、後期～終末期の須恵器が数か所で出土している。

石田遺跡は縄文時代の集落遺跡として著名である。古墳時代には湿地帯だったようで、溝以外には顕著な遺構が発見されていない。ただし、古墳時代初頭から前期にかけての土師器が数か所で出土しており、近辺での人の移動や生産活動が想定される。

鶏冠井遺跡は石田遺跡の東方に展開する遺跡で、弥生時代の玉作り関連遺物や方形周溝墓群などが検出されている。石田遺跡と同様に古墳時代には湿地帯だったようで、自然流路、沼状遺構が検出されている。左京第473次調査では前期の小区画水田が検出され、田下駄等の木製品が出土している。その他の地点では、初頭から前期、中期後葉から後期末の遺物が出土しており、断続的な土地利用があったようである。

鶏冠井清水遺跡は鶏冠井遺跡の南に隣接し、左京第151次調査では、弥生時代の玉作り遺構、水田が検出されている。古墳時代の遺構としては、前期～後期にかけて、各時期の自然流路、沼状遺構が確認され、水量の豊かな湿地状の地点に復元できる。左京第196・214次調査では後期の護岸施設が検出され、また、田下駄等の木製品が出土している。水田遺構は検出されていないが、上述の鶏冠井遺跡と同様に古墳時代の水田が営まれた可能性が高い。

鶏冠井山畑遺跡は奈良時代の乙訓郡衙跡に比定される遺跡である。古墳時代には、中期から後期にかけて、古墳群が造営される(山畑古墳群)。ただし、宮第62次調査では、終末期の竪穴建物が検出され、宮第326次調査では、鞍岡廃寺所用瓦が出土している。乙訓郡衙成立の背景を示す遺構・遺物と考えられる。遺跡内の広範囲から山畑古墳群に使用された埴輪が出土しており、終末期以降の建造物、寺院造営に伴う古墳群の破壊が推定可能である。

芝ヶ本遺跡は、建物は検出されないものの、古墳時代前期の桂川右岸の流通拠点の一つである。左京第145・305次調査では前期の旧河道、溝、土器溜りから大量の布留式土器が出土し、報告では前期中葉に位置づけられている。これらの遺物の中には碧玉製石釧、ガラス勾玉鋳型が含まれ

ている。ただし、後期になるとこの地点には小畑川旧河道が通っている。

北山遺跡・南山遺跡は、元稲荷古墳の周辺に展開する。弥生時代の高地性集落としても著名である。古墳時代の遺構は検出されていないが、前期～後期の遺物が散布している。後期の遺物では耳環、須恵器が出土しているが、元稲荷古墳を意識したものであろうか。

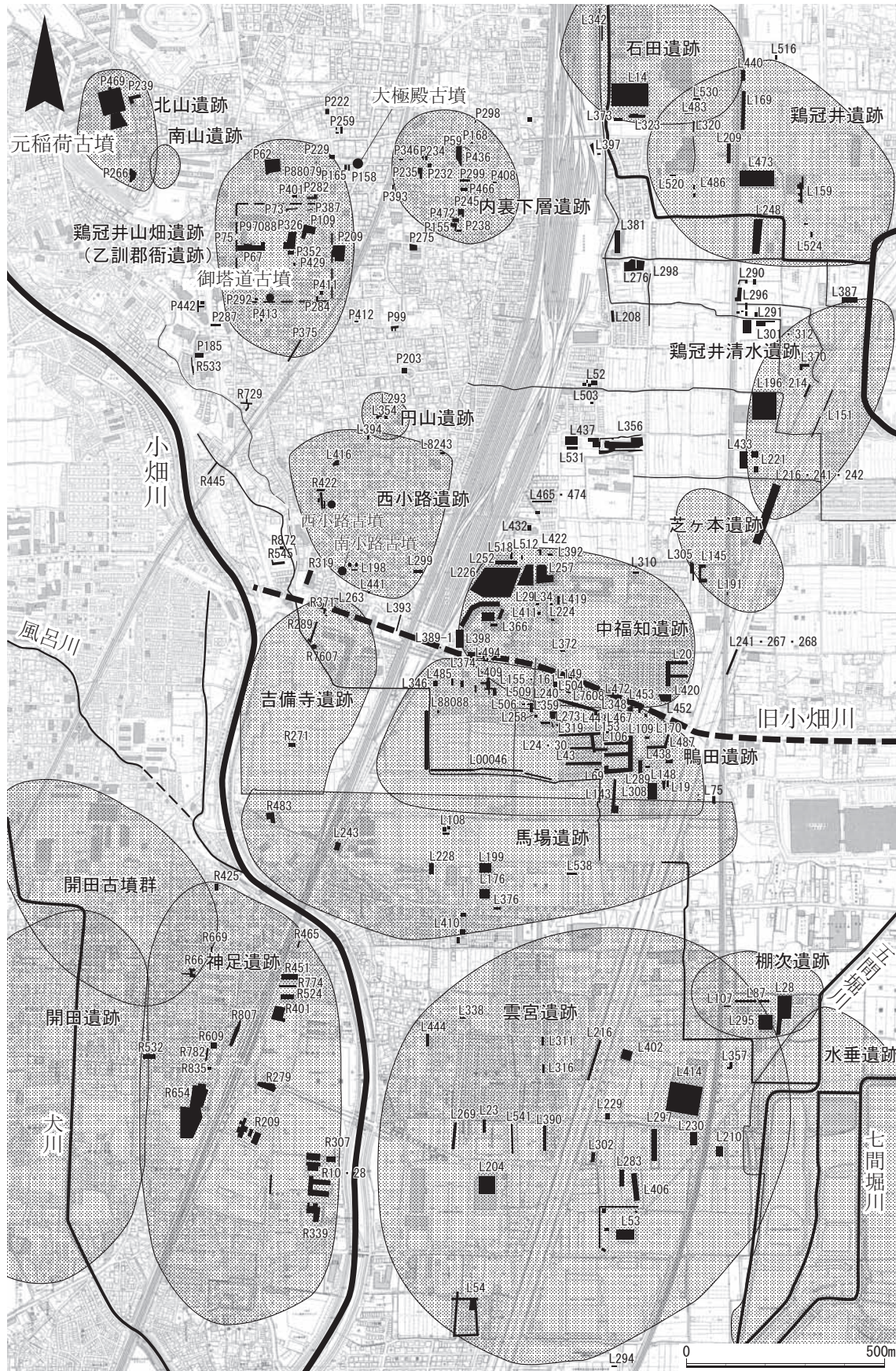
中福知遺跡は旧小畑川河道付近に位置し、水田地帯を形成する。前期には小区画水田が形成され、前期以降にも水田が形成される。旧小畑川の氾濫によって水田が廃絶する時期もあるが、古墳時代初頭から後期末まで、ほぼ途切れることなく各時期の遺物が出土している。

円山遺跡、西小路遺跡では、後期初頭～後期末の小型墳が数基検出されており、近辺の集落遺跡の墓域と想定される。この時期の集落としては、内裏下層遺跡が近隣に所在する。

吉備寺遺跡は現在の小畑川の左岸に位置する。弥生時代後期の集落が存在し、古墳時代初頭から前期中頃までの居住も確認されるが、その後空白があり、後期になってから再度土地利用が為されている。東に隣接する鴨田遺跡は同時期の大規模集落で、吉備寺遺跡と同時期の竪穴建物が近隣で検出されているため、両遺跡は同一集落であった可能性が高い。ところで、古墳時代の小畑川旧河道は当遺跡の北端付近にあたる左京第263次調査地点から東に流れ、中福知遺跡と鴨田遺跡の境界付近を通過していた。従って、吉備寺遺跡、鴨田遺跡以北の遺跡と以南の遺跡とでは、有機的に関連しない可能性がある。

鴨田遺跡は、旧小畑川の南に隣接する大規模な集落で、古墳時代初頭から後期末までほぼ一貫して、この地域の拠点的な集落と考えられる。左京第319次調査などでは、古墳時代の初頭の溝から大量かつ多様な他地域の土器が出土しており、この時期の流通拠点であった事を示す。また、左京第308次調査では弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての水田遺構、前期の灌漑用水路が検出されており、湿地地帯を活用した水田が営まれたことも確実である。ただし、同地点の調査では、古墳時代初頭の水田が、前期前葉から中葉頃の旧小畑川の氾濫で埋没したことも確認されている。生産性が高く、物資流通にも適したこの集落は、同時に水害に遭いやすい危険な立地であったことが明らかである。鴨田遺跡はこの水害によって一時的に衰退するが、この時期と前後して、上述した旧小畑川対岸の芝ヶ本遺跡が一時的に台頭する。

馬場遺跡は、鴨田遺跡の南に隣接し、鴨田遺跡と一体の集落を形成するようである。前期の遺構分布を見ると、左京第108次調査など、馬場遺跡北部に居住域が展開し、鴨田遺跡の居住域と関連するようである。対照的に、馬場遺跡南部の左京第176次・199次・228次調査、右京第483次調査では、弥生時代末から古墳時代前期の方形周溝墓が検出されている。ちなみに、鴨田遺跡の北部でも左京第149次調査で方形周溝墓が1基検出される事から、墓域が南北に分散し、その間に居住域が形成されていたようである。ただし、第00046次調査(立会)では、後世の削平を被らないにも拘らず、古墳時代の遺構が全く確認されていない。一面に建物が展開するわけではなく、粗密が存在したようである。また、鴨田・馬場・吉備寺遺跡の特徴として、建物規模に大きな格差が看取されないことがあげられる。当地域の古墳時代前期集落としては、特殊な様相と言えるだろう。



第3図 向日市南部 古墳時代集落分布図(S=1/15,000) (都市計画地図「向日町」「長岡」)

棚次遺跡、雲宮遺跡は、旧小畑川沿いに展開する大規模な集落で、古墳時代初頭から終末期にかけての遺物が大量に出土している。古墳時代初頭の遺物としては、生駒山西麓産、河内、近江、北陸、東海系の土師器が挙げられ、広範囲にわたる交流を示唆する。また、左京第269次調査では石釧が出土している。そして、雲宮遺跡のもう一つの特徴は、左京第17次・53次調査地点で、多数の布留式新相の遺物が出土していることである。検出遺構の多くは流路、溝であるが、左京第414次調査では前期の竪穴建物と掘立柱建物群が、左京第216次調査では中期の竪穴建物群が、左京第444次調査では後期の竪穴建物群が検出されている。古墳時代をほぼ一貫して、物流の一大拠点と評価できる。棚次・雲宮遺跡は、東に隣接する水垂遺跡と一体の集落と考えられるが、水垂遺跡については、次回掲載分で取り上げる。

小畑川右岸の神足遺跡は弥生時代中期の大規模遺跡である。弥生時代後期になると集落規模が縮小するが、右京第401次・451次調査、右京第774次調査で弥生時代後期末～古墳時代前期の方形周溝墓が数基検出され、また、右京第807次調査ではこの時期の竪穴建物が1基検出されている。しかし、総じて前期から中期までは低調で、当遺跡が飛躍的な繁栄を迎えるには、後期中頃まで待たなければならない。後期以降は多数の竪穴建物、掘立柱建物群からなる大規模集落に変貌し、その範囲は開田古墳群の中央部まで及ぶ。その後、飛鳥時代まで規模を保ち続ける。

この他に、固有の周知遺跡名を持たないものの、長岡京内に古墳時代の遺構、遺物検出地点が点在する。中福知遺跡の北側に多くが点在するが、河内系の庄内式土器や初期須恵器の出土が目につく。また、左京第465・474次調査地点では前期の土器埋置遺構、左京第531次調査地点では砂礫層から石釧が出土している。一帯は湿地帯であるため、前者は農耕儀礼との関連性が想定される。そして、後者は、この一帯が河川交通の要地でもあったことを強調している。

7. 長岡京市西北部の様相（第4図）

上里遺跡は、縄文時代晩期の集落である。右京第986次調査で弥生時代から古墳時代にかけての流路が検出されるが、集落が確実に形成されるようになるのは後期に入ってからで、右京第772次調査では、この時期を中心とする竪穴建物が15基検出されている。その後は再び中断期間があり、そして、後期後葉から後期末にかけて、大型の掘立柱建物群が造営される。古墳時代の上里遺跡は、南に隣接する井ノ内遺跡とセットとなり、一つの大規模集落を形成していたようである。上里遺跡における遺構の消長は、井ノ内遺跡の集落構造、規模の変化を示す現象であろう。

井ノ内遺跡は、弥生時代後期には大溝を有する集落である。古墳時代前期の遺構は右京第764次調査で流路、落ち込みが検出されたが、現段階では建物が未確認である。右京第952次調査の中期初頭の竪穴建物が現在確認される古墳時代最古の居住を示す遺構で、後期になると竪穴建物が周知遺跡範囲全体にわたって、数多くの調査地点で検出されている。後期の集落には掘立柱建物も付随する。後期になってから大型化する集落である。なお、右京第615次調査では、古墳時代の集落内を流れる流路S D01から、鞍を着装した大型の土馬が数点出土している。土馬の出土層位からは終末期の遺物以外に奈良時代の遺物も出土しているが、土馬の形態は古相を示し、終

末期～飛鳥時代の所産と考えられる。飛鳥・奈良時代の遺構が遺跡全体に展開しており、古墳時代と同規模を保っていたようである。

今里遺跡、今里北ノ町遺跡は乙訓地域を代表する大規模集落の一つである。弥生時代後期まで土地利用がなされ、古墳時代に入ると右京第818次調査では古墳時代初頭の土坑、右京第650次調査では前期の竪穴建物1棟が検出されるが、概して前期の遺構は散在的である。前期末～中期初頭の今里車塚古墳の出現と同時かやや遅れて集落の大型化が始まる。今里遺跡では有力者の存在を示す各時期の遺構が存在し、右京第310次調査では一辺8 m以上の大型竪穴建物（SH31023・24・28・29・34）が4回に渡って同一地点に建て替えられ、この地点への固執が窺える。また、そこに隣接して一辺7 mの竪穴建物が1棟建てられている。建物の存続時期を示す遺物が出土せず、帰属時期が判然としない。同地点では、大型竪穴建物の南側に後期の小型竪穴建物群が存在するが、大型竪穴建物と主軸方向が明らかに異なり、時期差が看取できる。また、報告には大型竪穴建物の埋土から後期の遺物が出土した、との記述があるが、最終段階の建物の廃絶後にあたるため、この地点に最初に大型竪穴建物が建てられた時期は、中期に遡る可能性がある。そして、後期になると集落内で掘立柱建物が建設されるようになる。右京第227次調査では後期末～終末期の大型掘立柱建物が数棟検出されている。桂川右岸全体を見ても圧倒的規模の掘立柱建物群で、有力者の居館と考えられる。今里遺跡ではその後、掘立柱建物を主体とする集落形態に移行し、古代寺院の乙訓寺が造営される。古墳時代以来の当地の有力氏族による創建であろう。

陶器町遺跡は、右京第551次調査で中期の土坑が検出される以外は、後期の竪穴建物、掘立柱建物が存在する。古墳時代の遺構検出数が少なく、情報が限られるが、今里遺跡と一体か、同遺跡の衛星的集落と考えられる。

開田古墳群の東部では、右京第496次・911次調査で竪穴建物が検出される。後述する開田遺跡、開田城ノ内遺跡の居住域からは400 m以上離れている。むしろ神足遺跡北部の居住域と近く、神足遺跡と一体の集落と考えられる。

開田遺跡、開田城ノ内遺跡は前期前葉から、終末期まで存続する集落である。古墳時代の遺構は多くないが広範囲にわたって分布し、右京第441次調査では前期の竪穴建物が6棟検出されている。また、右京第370次調査では、詳細な時期は不明ながら一辺7 mの竪穴建物が検出され、カマドの周囲から鉄滓、土師器、須恵器、製塩土器が出土している。また、同調査では大型の掘立柱建物も検出されており、後期以降も有力な集落であった事を示す。

東代遺跡、谷田遺跡では断片的な調査事例がある。東代遺跡では右京第191次調査で奈良時代の掘立柱建物群が検出された。同地点では古墳時代後期末の竪穴建物も確認されており、奈良時代の集落の前身と考えられる。谷田遺跡では、2次調査で前期の竪穴建物2棟、後期（MT15型式期）の竪穴建物1棟が検出されている。前期のSH11からは碧玉製管玉が出土している。400 m南には後述する下海印寺遺跡、伊賀寺遺跡が存在し、やや距離が離れるが、特に後期の両遺跡が顕著に大規模化することから、谷田遺跡は衛星的な集落と解釈することも可能である。

-18-

8. 長岡京市南部の様相（第5図）

西代遺跡では、小泉川流路に隣接する湿地状の地点で後期の遺物包含層が検出されている。立地から、後述する鈴谷遺跡の生産域と推測される。

鈴谷遺跡は後期中葉から後期後葉の集落である。建物は確認されなかったが、この時期のピット群が確認された。集落は短期間で廃絶し、その後、飛鳥3～4期の横穴式石室墳が構築される。

下海印寺遺跡、西山田遺跡は弥生時代後期後葉～後期末の遺構が多く、右京第842次調査では土器集積か所が検出される。また、右京第970次調査では9.0×7.6mのベッド状遺構を伴う堅穴建物SH121が検出された。また、近江・東海系、北近畿系を含む庄内期の土器が出土するなど、有力者の居住が想定される。しかし、その後は沈滞し、再び土地利用が為されるのは6世紀に入ってからである。6世紀の集落も大型で、数多くの堅穴建物が検出されている。

伊賀寺遺跡は、下海印寺遺跡と同様に、弥生時代後期後葉～後期末の遺構が多い。右京第902次調査では、弥生時代後期末の主軸長6.9mの多角形建物SH02が検出され、右京第947次調査では一辺8.0mのベッド状遺構を伴う堅穴建物SH05が検出された。SH05は6.5×7.0mの堅穴建物を拡張したもので、最低でも2時期にわたる。また、右京第901次調査の弥生時代後期末の流路からは大量の庄内式前期前半の土器が出土し、東海系、北近江系、生駒西麓産、摂津もしくは播磨系などを含む外来系の土器が含まれる。下海印寺遺跡と同じ様相を呈する事から、両遺跡にまたがる大規模集落であった事は確実である。伊賀寺遺跡も弥生時代後期末以降は低調となり、右京第635次調査の前期後葉の堅穴建物が出現するまで、空白期間が存在する。後期中葉になると堅穴建物が広範囲に展開し、掘立柱建物も点在するようになる。ところで、下海印寺遺跡、伊賀寺遺跡についてもう一つ特筆すべきは、中期中葉から後葉の初期須恵器、韓式系土器が出土していないことで、これまで紹介した他の集落とは完全に異質である。

友岡遺跡は、右京第624次調査で前期の堅穴建物が6基検出される。このうち、SH12とSH58は一辺約6mを測り、やや大型である。しかしその後、中期～後期前半の遺構は全く確認されておらず、後期後半になってから居住を示す遺構が出現するようになる。この時期の友岡遺跡は、隣接する下海印寺遺跡、伊賀寺遺跡と同一の大規模集落の東部にあたるようである。古墳時代以降は完全に様相が一変し、掘立柱建物から構成される大規模集落の中心地となる。古代寺院の鞆岡廃寺の造営主体となった有力な集団の居住域と考えられる。

南栗ヶ塚遺跡は、恵解山古墳に隣接する集落である。古墳時代初頭の遺構が点在し、右京第473次調査で土坑、右京第690次調査で土墳墓が検出されている。居住を示す遺構は未確認だが、この時期の集落が存在するようである。その後は遺構が希薄であり、右京第94次調査で流路からTK73型式の初期須恵器が出土し、右京第438次調査で中期の土坑、落ち込みが確認される。しかし、恵解山古墳造営に直接関連する遺構、遺物は未確認である。

（ふるかわ・たくみ＝調査第2課調査第2係調査員）



第5図 長岡京市南部・大山崎町 古墳時代集落分布図(S=1/15,000)(都市計画地図「川原谷」「長岡」「海印寺」「神足」)

付表

内裏下層遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
P155	遺物包含層（後期～終末期）、土坑	須恵器、土師器、埴輪	整地層（長岡京）、井戸（近世）	向日 18
P168		近江系土器（庄内式期併行）	－	向日 18
P232・235	溝	須恵器甕（後期末）	掘立柱建物、溝（長岡京）、溝（中世）	向日 28
P234	包含層（中期～後期・終末期）	須恵器（TK208・MT15～TK10、TK217）	竪穴建物（弥生後期末）	向日 32
P238・245	溝、周溝状遺構、ピット（後期末～初頭）、竪穴建物 3	円筒埴輪、朝顔形埴輪（5期）、須恵器	竪穴建物（弥生）、掘立柱建物（長岡京）	向日 31
P299	－	須恵器、円筒埴輪出土	内裏回廊（長岡京）	向日 43
P346	竪穴建物 2、掘立柱建物 1、溝 1 条、土坑 2、落ち込み 1（中期）	鉄鏃、碗形鉄滓、韓式系土器、須恵器（TK73～216）	竪穴建物、方形周溝墓（弥生後期末）	向日 46
P393	－	須恵器（中期）	第 2 次内裏西外郭（長岡京）	向日 52
P408	－	土師器（前期）、埴輪（4期）	溝、落ち込み（長岡京）、柱穴（中世）	向日 54
P436	－	須恵器	整地層、区画溝（長岡京）	向日 78
P466	－	須恵器（終末期）	竪穴建物 3、炉跡 2（弥生）、掘立柱建物 1、ピット 5、地業跡（長岡京）	向日 82
P472	－	埴輪（5期）	第 2 次内裏正殿地区東脇殿（長岡京）	向日 84

石田遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
L14	溝（弥生～古墳）	土師器	土坑（縄文）、掘立柱建物、溝（長岡京）	長研報 2003
L323	－	土師器（庄内～布留）	沼（弥生）	向日 39
L342	－	須恵器（TK10）	ピット（縄文）、道路側溝、柵列（長岡京）、溝（中世）	向日 47
L373	－	土師器（布留古）	溝、地震痕跡（縄文～長岡京）、掘立柱建物、土坑（長岡京）	向日 43
L530	－	土師器（布留古）	竪穴建物、土坑（縄文後期後葉）、道路側溝（長岡京）	向日 84

鶏冠井遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
L159	溝、流路	土師器（布留古）、生駒山西麓産甕（庄内新）	掘立柱建物、井戸、道路側溝（長岡京）、流路（弥生）	向日 27
L169	沼（縄文時代後期末～古墳）、流路（初頭～後期）	土師器（庄内～布留）、須恵器（TK10～TK43）	土坑、炭層（縄文晩期）、掘立柱建物、井戸、柵（長岡京）	向日 30
L209	包含層（TK47～TK209）	須恵器	沼状遺構（弥生後期～庄内）	向日 32
L248	－	須恵器	弥生前期から中期の遺物多数、掘立柱建物（長岡京）	向日 37
L320	流路（弥生～長岡京）	土師器	玉作り関連遺物（弥生）	向日 51
L440	流路（長岡京以前）	－	土器、木製品（弥生後期）	向日 77
L473	小区画水田（前期）	田下駄など木製品	方形周溝墓（弥生）、流路（縄文～弥生）、道路、溝、掘立柱建物（長岡京）	向日 65 - 2
L483	溝、土坑（古墳～飛鳥）	須恵器	土坑（古代）	向日 64 - 1
L486	－	須恵器	方形周溝墓群（弥生）、二条条間大路（長岡京）	向日 63
L520	－	須恵器、土師器	溝（長岡京）、坪境溝（中世）	向日 79
L524	－	須恵器（TK216・TK43～TK209）	条坊遺構（長岡京）	向日 82

鶏冠井清水遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
L151	土坑（終末期）	須恵器	玉造遺構（弥生中期）、水田（弥生）	府セ概 22

L196・ L214	流路数条、沼状遺構、護岸施設（後期）	田下駄などの木製品	道路側溝、井戸、掘立柱建物（長岡京）、溝（中世～近世）	向日 34
L216	流路（～中期）	須恵器	流路、溝（弥生）、掘立柱建物、溝（長岡京）	府セ概 40
L221	沼状遺構（初頭～前期後半、後期後葉）、流路（前期後半）、流路（後期）	土師器（初頭、前期後半）、須恵器（後期）	掘立柱建物、溝（長岡京）、溝（中世）	向日 41
L241・ L242	流路（弥生後期～古墳）、流路（後期中葉）、流路（前期）	土師器（布留古）、須恵器（TK10）、勾玉	掘立柱建物（長岡京）、耕作関連遺構（中世）	府セ概 47
L370	－	後期の遺物	－	向日 43
L387	－	土師器（布留式、二重口縁壺含む）、須恵器（後期）	道路側溝（長岡京）	向日 65 - 1
L433	凹み（後期）、流路、包含層（弥生時代前期～古墳時代後期）	古式土師器（初頭～前期）、須恵器（TK47～TK10）、剣形木製品、田下駄	条坊側溝、柵、築地、掘立柱建物、橋、凹み、暗渠（長岡京）	向日 74

鶏冠井山畑遺跡（乙訓郡衙跡）

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
P62	竪穴建物（終末期）	須恵器、円筒埴輪	土坑、溝（奈良）、礎石建物（長岡京）	府埋セ 1976
P67	－	須恵器（後期中葉）、埴輪（5期）	掘立柱建物（飛鳥～奈良）	長研報 2003
P73	古墳周濠（中期末～後期初頭）、壺棺墓 2	須恵器、埴輪（須恵質）（中期末～後期初頭）	掘立柱建物（奈良）整地層、石敷き（長岡京）	向日 4
P109	古墳周濠（中期後半～後期初頭）	須恵器（TK216～TK23）	朝堂院西第一・第二堂（長岡京）	向日 8
P209	－	陶棺、埴輪片	溝、土坑（中世～近世）	向日 26
P229	－	須恵器、埴輪（5期）	溝、柱穴（長岡京）	向日 28
P282	古墳周溝 2（TK216～TK23）、溝 2、土壙墓 5、土器棺墓、ピット群（5世紀代）	須恵器、土師器	溝、土坑、井戸状遺構、ピット群（近世）	向日 75
P292	－	形象埴輪、円筒埴輪	溝、土坑、築地（中世）	向日 39
P326	－	埴輪片、須恵器片	掘立柱建物 2（飛鳥～奈良）、鞍岡廃寺所用瓦（飛鳥～奈良）、朝堂院西外郭ライン（長岡京）	向日 69
P352	－	円筒埴輪、形象埴輪、須恵器	溝、土器溜り、土坑（近世）、土坑、溝、杭列（長岡京）	向日 46
P375	－	埴輪（2期）、須恵器（TK23）	柱列、ピット群（奈良）、溝、土坑、凹み（近世）	向日 69
P387	－	須恵器片	大極殿院西面回廊（長岡京）	向日 52
P401	－	須恵器片	柱穴（近世）	向日 52
P411	－	須恵器（中期）	柱穴、整地層（長岡京）	向日 59
P413	－	須恵器	築地、溝（長岡京）、溝（中世）	向日 59
P88079	古墳周濠	円筒埴輪、朝顔形埴輪、蓋形埴輪（4期）、須恵器（TK23～TK47）	－	向日 25
P429	－	須恵器（TK23～TK10）、埴輪	溝状遺構、整地土（長岡京）	向日 63
P97088・ 99151	－	須恵器（古墳～飛鳥）	礎石建物、溝、瓦溜り（長岡京）	向日 80

芝ヶ本遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
L191	流路	土師器（前期）	溝（中世）	向日 27
L145・ L305	土坑 13、落ち込み 4、溝 5、土器溜り 2 か所以上、ピット 25（前期）、包含層（前期）、旧河道（後期～奈良時代）	碧玉製石釦、ガラス製勾玉の鑄型、土師器（前期）	ピット、土坑（奈良）	向日 38・向日 51（2）

北山遺跡・南山遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
P239	－	土師器（前期）	－	向日 32
P266	－	須恵器（中期）、耳環（後期）	方形周溝墓群（弥生中期）溝（長岡京）	向日 53
P469・ 元稲荷古墳 5 次	元稲荷古墳後方部	特殊器台形埴輪、土師器（讃岐系）、須恵器（後期前葉）	－	向日 84

中福知遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
L20	－	土師器（前期）、須恵器（中期後半）	井戸、溝、土坑（平安～中世）	長研報 2003
L224	－	土師器	溝、井戸、柱穴、流路（中世）	向日 37
L257	小区画水田（前期）、河道（後期～終末期）	土師器（布留古・新）、須恵器（TK208～TK43）	掘立柱建物、流路（長岡京）	向日 57
L310	流路、畦畔状遺構（後期）	須恵器	流路（奈良）、溝、柱穴、加工木溜り、整地層、流路、杭列（長岡京）	向日 57
L366	耕作関連溝、溝、土坑、ピット（前期・水田関連遺構）、氾濫堆積層、土器埋納土坑（前期）、流路（後期中～後期末）、流路（後期末）	土師器（前期）、須恵器	護岸施設（奈良）、溝、流路（長岡京）、溝、井戸（平安）	府セ概 75
L372	溝（後期中）	須恵器（MT15）	－	向日 47
L389	旧小畑川流路北端	土師器（布留中）	掘立柱建物、柵列（平安）、掘立柱建物、溝（中世）	府セ概 78
L392	自然河道（古墳時代が下限）	土師器、須恵器	掘立柱建物（長岡京）、溝（中世）	向日 44
L411	水田（前期）	土師器	流路（長岡京）、溝（中世）	向日 66
L419	旧小畑川（古墳時代が上限）	土師器、須恵器	溝（中世）	向日 66
L420	旧小畑川（中期～後期）	須恵器（TK209～TK217）	旧小畑川（奈良、鎌倉初頭）	向日 66
L452	湿地状堆積（古墳時代の可能性）	須恵器（TK47）	溝（中世）	向日 58 - 2
L453	－	土師器（庄内、布留古）、須恵器（中期～後期）	溝（平安後期～中近世）	向日 58 - 2
L494	－	須恵器（詳細不明）	長岡京期～平安時代の小畑川の流路の位置を確認	向日 77
L504	ピット（詳細な時期不明）	－	流路（弥生後期以前）、掘立柱建物、溝（平安後期以降）	向日 78
L509	－	須恵器（TK23～TK47）、土師器	中世以前の流路から、弥生土器出土、詳細な時期不明	向日 81
L512・L518	水田遺構（前期以降）	土師器、須恵器（TK209）、埴輪、杭	溝（平安）、溝（中世）、井戸（近世）	向日 81

円山遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
L293	－	須恵器（TK10～TK43）	整地層（長岡京）、土坑（近世）	向日 36
L354	方墳周濠（「L」字状に曲がる）	土師器破片、須恵器	溝（古墳以前）、掘立柱建物、土坑（長岡京）	向日 39
L394	－	円筒埴輪（5期）	掘立柱建物（長岡京）	向日 46
L8243	壺棺（前期）	土師器	－	向日 10

西小路遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
L198	南小路古墳周濠	埴輪（5期）、須恵器（TK217）	土坑（平安）、溝、ピット、段状遺構（中世）	向日 27
L299	－	須恵器（終末期）	井戸、柱穴群（長岡京）、柱穴、ピット、土坑（中世）	向日 38
R319	小畑川流路	須恵器（TK23～TK217）	溝（中世～近世）	向日 30
L394	－	円筒埴輪（5期）	掘立柱建物（長岡京）、杭列（長岡京以降）	向日 46
L416	古墳4、溝2条、凹み1（後期後葉～末）	須恵器（TK23～TK217）、土師器	土坑、溝、柱列（奈良～長岡京）、土坑、溝（中世）	向日 46
R422	古墳周濠	須恵器（MT15～TK10）、円筒埴輪（5期）	道路側溝、築地、溝（長岡京）、溝、土坑、池状遺構、井戸（中世）	向日 57

吉備寺遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
R7607	－	須恵器（TK23～MT15）	平城宮式瓦出土	向日 3
L263	小畑川旧河道（長岡京期が下限）	－	溝（中世～近世）	向日 34
R271	土坑（庄内～布留）、掘立柱建物（後期、1×2間以上、同様の大型ピットが周辺に存在）	土師器（庄内～布留、生駒山西麓産含む）	堅穴建物2（弥生後期）、掘立柱建物群（長岡京）	向日 24
P289	堅穴建物（前期中頃）、溝（後期か）	土師器（布留古）	堅穴建物3（弥生後期）	向日 24・25
P371	小畑川旧河道より、前期・後期の遺物片出土	土師器（布留新・後期）	畦畔、溝（中世）	向日 33

鴨田遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
L19	－	須恵器 (TK23 ～ MT15)	－	向日 5
L24・L30・ L43・L44・ L69	土器溜り 2、流路 4	土師器 (初頭～中期)、須恵器 (TK47 ～ TK209)、韓式系土器、木製農耕具、 木器	長岡京期の建物、溝、土坑、第 5 様式の土器片も出土	向日 14
L106	竪穴建物 8 (布留新、MT15 ～ TK10)、掘立柱建物 (3 × 3 間、3 × 4 間の計 2、側柱建物で、TK209 が下限)、井戸、大溝 (布留新)	須恵器 (TK23 ～ TK209)、土師器 (布 留新)、木製品	掘立柱建物、溝、道路側溝、井戸 (長 岡京)	向日 17
L109	－	須恵器杯蓋	道路側溝 (長岡京)、溝 (中世)	向日 22
L143	竪穴建物 3 (時期不明)、掘立柱建物 1 (後期の可能性)、自然河道	土師器 (詳細な時期不明)、須恵器 (TK208 ～ TK43)	壺棺 (弥生前期)、掘立柱建物、柵 列 (長岡京)、溝 (中世)	向日 21
L148	竪穴建物 1 (MT15 ～ TK10)、溝	須恵器 (MT15 ～ TK10)	掘立柱建物 (長岡京)	向日 22
L149	方形周溝墓、溝 (布留)、流路 (後期)	詳細不明	詳細不明	長連協 86- 03・向日 64
L153	流路	土師器、須恵器	柵列 (長岡京)	向日 22
L155・ L161	竪穴建物 6、土坑、土器棺墓 (後期 中葉)、流路 (終末期)	須恵器 (中期後葉・後期中葉・終末 期)、土師器 (庄内・布留)	掘立柱建物 (長岡京)、掘立柱建物 (平安)	向日 47
L170	流路	土師器	掘立柱建物、土坑、溝、流路 (長 岡京)、溝 (中世)	向日 24
L240	流路 1 (後期)、流路 1 (前期～後期)、 土器溜り 2 (前期前葉・前期中葉)	土師器 (庄内・布留)、須恵器 (TK216 ～ TK10)	落ち込み (弥生前期)、溝 (中世) 土器溜り、溝 (長岡京)	向日 31
L258	土器溜り 1、土坑 3 (布留新)	土師器 (布留)、須恵器 (TK23 ～ TK47)	溝 (長岡京)	向日 31
L273	流路 (TK10 ～ TK209)	須恵器 (TK10 ～ TK209)	溝 (長岡京)	向日 33
L289	－	土師器 (布留古)、須恵器 (TK23 ～ TK209)	溝 (長岡京)	向日 38
L308	水田遺構 (弥生 5 ～ 初頭)、灌漑用水 路 (前期)、竪穴建物状遺構 (中期 以降)	土師器 (布留古)、須恵器 (TK23 ～ TK10)	掘立柱建物、柵、土器・錢貨埋納 土坑、柵、整地層 (長岡京)	向日 69
L319	溝 3 条、土坑群 (前期)、溝 (TK23 ～ TK217)	土師器 (東海系、吉備系、生駒山 西麓産を含む)、須恵器 (TK23 ～ TK217)	溝、土坑、旧河道、柱列 (弥生前期)、 四条大路路面、同南側溝 (長岡京)	向日 39
L346	竪穴建物 4、柱穴 2 (前期中葉～後葉)	山陰系、近江系	落ち込み状遺構 (長岡京)、柱穴、 溝 (中世)	向日 64 - 1
L348	土坑 1、流路 2 条 (初頭～前期)、堆 積層 (前期～中期以降)	土師器 (庄内新～布留古)、須恵器 (TK10)	柵列、井戸 (長岡京)、溝 (中世)	向日 43
L359	竪穴建物 3 (前期・後期)	土師器 (布留古) 須恵器 (TK10・ TK43)	竪穴建物 (弥生後期)、道路側溝、溝、 落ち込み、柱列 (長岡京)	向日 64 - 1
L374	－	土師器、須恵器 (中期～ TK10)	大型掘立柱建物 (長岡京)	向日 75
L409	掘立柱建物 (弥生～古墳、詳細な帰 属時期不明)	土師器 (庄内、布留)、須恵器 (TK208 ～ TK47)	柵、掘立柱建物 (長岡京)、流路、 溝 (中世)	向日 62 - 1
L438	－	土師器 (布留古)、須恵器 (TK43)	溝、整地土層 (長岡京)、水田 (平 安以降)	向日 61
L441	旧小畑川 (～長岡京)	不明	ビット、土坑 (中世)	向日 50
L452	湿地状堆積 (古墳時代の可能性)	－	溝 (中世)	向日 58 - 2
L453	－	土師器 (庄内～布留)、須恵器 (中 期～後期)	平安後期～中近世の溝	向日 58 - 2
L467	－	土師器	旧小畑川 (9 世紀段階)	向日 67
L472	湿地性堆積 (前期)	土師器 (布留古相)	旧河道 (長岡京～)	向日 59
L485	柱穴 (古墳～長岡京)	土師器	溝、柱穴、土坑、落ち込み (長岡 京～平安)、溝 (平安～中世)	向日 67
L487	－	土師器 (布留古相)	溝、偶蹄類足跡 (平安)、溝、杭列 (中世・近世)	向日 64 - 1
L494	－	須恵器	小畑川 (長岡京～平安)	向日 77
L504	ビット (前期)	土師器	流路 (弥生後期以前)、掘立柱建物、 溝 (平安後期以降)	向日 78
L506	流路 (弥生～古墳)、溝 (後期)、堆 積層 (前期～後期)	土師器 (布留新)、須恵器 (MT15)	－	向日 72
L509	－	須恵器 (TK23 ～ TK47)、土師器	流路 (中世以前)	向日 81

L7608	小畑川旧河道	土師器（前期）、須恵器（後期）	小畑川旧河道	向日 3
L88088	竪穴建物（初頭）	古式土師器（布留古）	－	向日 25
L00046	流路（古墳時代）、包含層（弥生～古墳）	土師器	道路側溝、柱穴（長岡京）	向日 80

馬場遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
L75	掘立柱建物（後期後葉以前）	須恵器（TK23～TK43）	掘立柱建物（長岡京）	向日 8
L108	井戸 1、溝 8、竪穴建物 1、土坑 6、土器溜り 3（庄内～布留新）、溝（TK208～TK23）	土師器（庄内～布留新）、韓式系土器、須恵器（TK208～TK23）	溝（長岡京）、溝（中世）	長セ報 2
L176	方形周溝墓 3、主体部 2 [木棺直葬]、柵 2、落ち込み 1、溝（弥生時代後末～古墳時代前期）	銅鏡、土師器（庄内）	溝、掘立柱建物（中世）	長セ年 昭 62
L199	流路 1・方形周溝墓 1・掘立柱建物 1（前期）、土坑 2・柱穴（時期不明）	土師器（布留）	流路（弥生前期）、道路側溝、土坑、溝（長岡京）、溝（中世）	長セ年 昭 63
L228	方形周溝墓 3、主体部 2 [木棺直葬]（前期）	土師器（庄内）	流路（弥生中期）、道路側溝、掘立柱建物（長岡京）、溝（中世）	長セ年 平 元
L243	土坑 1（時期不明）、落ち込み、土坑	土師器	溝（弥生）、溝（中世）	長セ年 平 2
L376	土器溜まり（前期）、河道（縄文～古墳）	土師器	溝（中世）	長セ年 平 7
L410	落ち込み、溝、柱穴、土坑、木棺墓（初頭～前期）、柱穴、落ち込み、溝（中期以前）、畦畔状遺構（中期）、溝、柱穴、竪穴建物（後期）	土師器（庄内）、須恵器（TK10）	流路、溝（弥生）、溝（中世）	長セ年 平 9
R483	竪穴建物 3、土器溜まり 1（弥生時代後期末～古墳時代前期）、溝 2、方形周溝墓 3（前期）	土師器（庄内～布留古）、碧玉、鉄器	掘立柱建物、溝（長岡京）、溝（平安・中世）	長セ年 平 6

棚次遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
L28	水田（後期～終末期）	土師器、須恵器	水田（奈良・平安）	長市報 14
L84・L87	溝 1（弥生時代～古墳時代）	－	湿地堆積（弥生前期）、道路側溝（長岡京）、水田遺構（平安）	長セ年 昭 57・長セ報 1
L107	溝 1（前期）	－	溝（弥生前期）、溝、畦（長岡京～）	長セ年 昭 58
L295	流路（後期）	不明	掘立柱建物、井戸、溝（長岡京）	長セ年 平 4

雲宮遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
L17	溝 4（中期）、土坑 2（後期～終末期）	土師器（中期～後期前葉）、竪櫛、鉄片	溝、土坑（弥生）	長市報 5
L53	流路 1（弥生時代後～古墳時代前期）	土師器（庄内～布留古）	掘立柱建物、溝、土坑（長岡京）	長市報 14
L54	土坑 5（前期）、溝 8（後期）	土師器（布留新、中期後葉）、須恵器（TK47～TK43）	土坑（弥生後期末）、溝、土坑、ピット（中世）	長市報 14
L200	遺物包含層（前期）、谷地形（中期）	土師器	道路側溝（長岡京）	府セ概 35
L204	流路、柱穴（前期～中期）	土師器、須恵器、玉類、有孔円板、石杵、木製品	掘立柱建物、道路、井戸（長岡京）	長セ年 昭 63
L210	流路 1（前期）	－	掘立柱建物、道路（長岡京）	長セ年 昭 63
L216	溝 1（前期～中期）、竪穴建物 1・溝 4・流路 4（中期）、流路 1（時期不明）	土師器（前期～中期中頭、中西部瀬戸内系土器含む）、韓式系土器、ナスビ形着柄鋤、木製案	雲宮遺跡の内環濠・外環濠	府セ概 40・府セ概 47
L229	流路 1（中期）、沼 1（後期）	須恵器、土師器、木製農耕具	江戸時代の溝、弥生前期と中期の溝、弥生前期の土坑（炭化米出土）	長セ年 平 元
L230	溝（前期）	詳細不明	道路側溝（長岡京）、道路（近世）	長セ年 平 元
L269	溝 3、土坑 2、柱穴（中期～後期）	土師器（中期）、須恵器、石釧	轍、掘立柱建物、井戸（長岡京・平安）	長セ年 平 3
L283	流路 1（後期）	須恵器	掘立柱建物（長岡京）	長セ年 平 3

L295	流路（後期）	詳細不明	掘立柱建物、柵列、溝、井戸、土坑（長岡京）	長七 年 平 4
L297	溝（中期）	遺物多数出土するが、詳細不明	焼土坑、土器棺（弥生前期）、井戸、道路側溝、掘立柱建物（長岡京）	長七 年 平 4
L302	流路、溝、土器溜まり（時期不明）	詳細不明	溝、掘立柱堀（長岡京）	長七 年 平 5
L311	土坑（時期不明）	詳細不明	道路側溝、掘立柱堀（長岡京）、土坑（弥生）	長七 年 平 5
L316	流路 1（時期不明）	詳細不明	道路側溝（長岡京）	長七 年 平 5
L338	柱穴 1・落ち込み 1（弥生時代後～古墳時代前期・庄内）	須恵器（TK10）、土師器（庄内）	溝（長岡京）	長七 年 平 6
L357	溝 3（前期・庄内）、柵 1・柱穴（終末期）	土師器（庄内新・生駒山西麓産、河内、近江系含む）、須恵器（TK217）	溝（長岡京）溝（中世）	長七 年 平 6
L390	流路・しがらみ（前期・中期・後期）	土師器、刀形木製品、須恵器	道路側溝、掘立柱建物（長岡京）	長七 年 平 8
L402	水田（中期）、流路（中期～後期）	土師器（庄内～布留古 生駒山西麓産含む）、須恵器（TK23～TK217）	掘立柱建物（長岡京）、溝（中世～近世）	長七 年 平 9
L406	溝 4・流路 2（後期）	木製品未成品、須恵器（TK10～TK209）、土師器	掘立柱建物、溝（長岡京）、溝（中世）	長七 年 平 9
L414	竪穴建物 9、掘立柱建物 3 以上、土坑 16、流路 3（前期）、柱穴、流路 1（後期）	土師器（庄内～布留、生駒山西麓産、近江、北陸、東海系含む）、須恵器、韓式系土器、木製品（梯子含む）	道路側溝、掘立柱建物、井戸（長岡京）	長七 年 平 9
L444	落ち込み状遺構（時期不明）、竪穴建物 4（後期）	須恵器（TK10）、土師器	掘立柱建物（平安）、掘立柱建物（長岡京）	長七 年 平 12
L541	流路、溝（前期・後期）	土師器、須恵器	掘立柱建物（長岡京）	長七 年 平 22

神足遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
R10・R28	竪穴建物 4（TK10）、掘立柱建物 4（竪穴建物と並行する可能性）溝 2（後期）、埴輪円筒棺 1（4 期）	須恵器、埴輪	弥生時代の方形周溝墓、土墳墓、竪穴建物、溝（畿内 2～4 様式）	長市報 5
R66	竪穴建物 3、掘立柱建物 1、方形周溝遺構 2、柵列 1（方形周溝遺構から TK43 の遺物出土）	土師器、須恵器（TK43）	掘立柱建物、土坑、溝（長岡京）	長市報 14
R209	竪穴建物、掘立柱建物（後期、SH20912 は前期に遡る可能性）	不明	竪穴建物、土坑（弥生中期）、掘立柱建物、ピット（長岡京）	長七 年 昭 60
R279	窪地 4、溝 1、掘立柱建物 8、竪穴建物 3（古墳時代後～飛鳥時代）	詳細不明	竪穴建物、掘立柱建物、土坑、土器棺（弥生）、溝、掘立柱建物、井戸、土坑（長岡京）、柱穴、土坑、溝（中世）	長七 年 昭 62 長七 報 4
R307	古墳周濠（後期）	埴輪（5 期）、須恵器（MT15）	竪穴建物、柱跡群（弥生中期）、溝、柱穴（中世）	長七 年 昭 63
R339	竪穴建物 1（後期）	土師器	方形周溝墓（弥生中期）、掘立柱建物、溝、土坑（長岡京）、掘立柱建物、土墳墓、溝、瓦溜り（平安京）	長七 年 平 元
R401	方形周溝墓 1（前期）、土墳墓約 20（後期）	須恵器、鉄製工具（土墳墓副葬品）	方形周溝墓（弥生）、竪穴建物（飛鳥）、掘立柱建物、溝、柵列、土坑（平安）、勝竜寺城関連遺構（近世）	長七 年 平 4
R425	竪穴建物 8（古墳時代後～飛鳥時代）、落ち込み 3・土坑 1（飛鳥時代）	土師器（庄内）、須恵器（TK43～TK209）、滑石製紡錘車	溝（弥生）、土坑、ピット（奈良）、掘立柱建物、柵、溝（長岡京）、土坑、ピット（中世）	長七 年 平 4
R451	方形周溝墓 2（前期・庄内）、土坑 1（中期）、土坑 1（時期不明）	－	掘立柱建物（近世初頭）、井戸（平安）	長七 年 平 5
R465	竪穴建物 1（後期後半）	須恵器	掘立柱建物（長岡京～平安）、掘立柱建物（中世～近世）	長七 年 平 6
R524	木棺墓 1・土墳墓 12・溝 1（後期）	須恵器	方形周溝墓（弥生）、掘立柱建物、掘立柱堀（長岡京）、井戸、掘立柱建物、溝（近世）	長七 年 平 8
R532	竪穴建物 1・土坑 1（後期）	土師器、須恵器	竪穴建物 3、掘立柱建物 3（飛鳥）、掘立柱建物、堀、土坑（長岡京）	長七 年 平 8

桂川右岸地域における古墳時代集落の動向（3）

R609	竪穴建物 1（後期）	不明	道路側溝、柱列、土坑（長岡京）、溝（中世）	長七年 平 10
R654	竪穴建物 1、掘立柱建物 2（後期後葉～末）	須恵器、滑石製紡錘車	方形周溝墓、竪穴建物（弥生）、掘立柱建物（長岡京）、掘立柱建物（中世・近世）	長七年 平 11
R669	落ち込み状遺構 1	土師器、須恵器（TK43～TK217）、円筒埴輪（2～3・5期）	落ち込み状遺構 2	長七年 平 11
R774	方形周溝墓（弥生後期末～初頭）	土師器	土壇墓または木棺墓（弥生中～後）	長七年 平 15
R782	方墳周溝墓、土坑 1（後期）、掘立柱建物 1・総柱倉庫 1（古墳時代後期後半～飛鳥時代）	須恵器	方形周溝墓（弥生）、土坑、竪穴状遺構、溝（長岡京）、柱穴、溝（中世）、勝竜寺城関連遺構（近世）	長七報 39
R807	溝 1、竪穴建物 1（前期・庄内期）、土坑 1（後期～飛鳥）	土師器、須恵器	方形周溝墓（弥生）、掘立柱建物、井戸（長岡京）、掘立柱建物、土坑（平安）、柱穴（鎌倉）	長七報 43
R835	溝 1（前期後半）	土師器	土壇墓、溝、土器棺墓（弥生）、溝、柵列、柱穴（長岡京）	長七報 44

長岡京跡（上記以外）

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
P99	－	埴輪片	井戸、柱穴列	向日 7
P158	古墳周濠	円筒埴輪、盾形埴輪、朝顔形埴輪（4期）	大極殿北面回廊（長岡京）	向日 18
P185	小畑川流路	土師器、須恵器	－	府七概 26
P203	－	古墳時代の遺物少量	掘立柱建物、柵列、土坑、溝（長岡京）	向日 29
P222	－	須恵器（MT15～TK10）	墓地（近世）	向日 29
P259	－	円筒埴輪（4期・5期）、須恵器（TK47前後）	溝、土坑、炭層、柱（長岡京）、土坑、溝、ビット（近世）	向日 33
P275	－	須恵器、土師器	礎石建物、石敷き遺構（長岡京）	向日 38
P287	小畑川旧河道（後期～）	須恵器	溝（中世）	向日 39
P412	－	須恵器（飛鳥）	整地層（長岡京）	向日 59
P442	－	須恵器（中期～飛鳥）	13世紀を下限とする小畑川の旧河道を検出	向日 78
L52	－	須恵器（TK43）	道路側溝、溝（長岡京）	長研報 2003
L208	－	須恵器	掘立柱建物、溝（長岡京）	向日 28
L241・267・268	遺物包含層（前期～後期後葉）、溝（布留中～新）	土師器（布留）、須恵器（TK43）	包含層（弥生）	府七概 51
L276	－	須恵器（MT15）	ビット、土坑（縄文）、井戸、柵列、溝（長岡京）	向日 26
L290	沼状遺構（後期以前）	須恵器（TK10）	道路側溝、橋（長岡京）、溝（中世）	向日 38
L291・296	流路（弥生～前期）、土坑（後期）	土師器（生駒山西麓産含む）、須恵器（MT15～TK43）	土坑、溝、沼（～弥生）、溝（弥生中期）、道路側溝（長岡京）、溝、土坑、足跡（中世～近世）	向日 53
L298	－	須恵器	長岡京期の流路、土坑、二条大路、築地、井戸	向日 53
L301・312	－	須恵器（TK217）	掘立柱建物、道路側溝、築地、柵（長岡京）	向日 69
L356	氾濫堆積物（中期後葉～後期末）	土師器（河内型庄内甕）、須恵器（TK216～TK209）	長岡京期の池状遺構	向日 64 - 1
L381	－	須恵器（TK47）	条坊側溝、大型掘立柱建物（長岡京）	向日 65 - 1
L397	－	須恵器	湿地状堆積（縄文）、溝（弥生中期）、凹み（長岡京）、凹み（中世）	向日 65 - 1
L432	氾濫堆積層（～後期）	土師器、須恵器	溝（中世）	向日 74
L437	包含層（後期～飛鳥）	土師器、須恵器、不明鉄製品	掘立柱建物、柵、門、土坑、道路側溝（長岡京）	向日 77
L465・474	土器埋納遺構、凹地、河道（前期）、旧小畑川堆積物（後期～）	土師器（庄内～布留式新相）、須恵器（後期中葉～後期末）	長岡京の条坊関連遺構	向日 61
L503	砂礫層（後期初頭）	土師器、須恵器	長岡京期の土坑、平安時代の溝	向日 70 - 1

L531	砂礫層（詳細な時期不明）	石釧	道路側溝、掘立柱建物、井戸、溝、礫溜まり、土器溜まり（長岡京）、溝（中世）	都城 22
R445	砂礫層（旧小畑川）	須恵器	－	向日 47
R533	－	須恵器（TK43～TK217）、土師器（布留古）	流路（中世）、溝	向日 47
R545	小畑川旧河道（後期）	須恵器	溝、耕作痕（近世）	向日 47
R729	小畑川氾濫原	須恵器（TK73～TK216）、埴輪	耕作関連遺構（中世）	向日 78
R872	－	須恵器（TK10）	13世紀の遺物を包含する旧小畑川の氾濫堆積	向日 76

第 4 図

上里遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
R22・25	流路	TK23～TK217の遺物	－	長七報 11
R48	土坑 2・柱穴（後期～終末期）	須恵器、土師器、埴輪	溝、土坑（弥生中期）	長市報 19
R107	土壙墓 3・溝 1・土坑 1（後期）	須恵器（TK43～TK217）、銀環	柱穴、溝、土坑（中世）	府セ概 8
R749	土壙墓（後期）、土坑	須恵器（TK209）	溝（平安）、井戸、溝、柱穴（中世）	長七年 平 14
R772	竪穴建物 15、溝（後期初頭～前葉）土坑	土師器、須恵器（TK216～TK47・TK209）、土製品、石製品	土器棺墓、土壙墓（縄文）、方形周溝墓、流路（弥生）、道路側溝、木棺墓、掘立柱建物、溝、井戸、柵列（長岡京）、掘立柱建物（平安）、溝、柵列（中世）	京埋研概 2003 - 3
R775	掘立柱建物 6（後期末）、溝（後期末）	土師器、須恵器（TK43～TK209）	－	京埋研概 2003 - 4
R850	竪穴建物（後期前葉）、掘立柱建物 3（後期後葉）、掘立柱建物 4（後期末）、溝（後期）、土坑、溝、河川	土師器、須恵器（TK47～TK209）、韓式系土器、石製品	掘立柱建物、井戸、柵、柱穴列、土坑、溝、河川（長岡京）	京埋研報 2006 - 6
R986	流路（弥生～古墳）	詳細不明	流路（弥生）	府セ報集 140

井ノ内遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
R27	竪穴建物 2、土坑 2	須恵器、土師器	古墳時代の遺物が調査地全域から出土	府埋 概 1980 - 2
R29	土坑（終末期）	土師器、須恵器（TK217）	井戸（長岡京）、溝（中世）	長市報 19
R44	坂川流路	須恵器	土坑（奈良）、土坑、掘立柱建物（中世）	府埋 概 1981 - 1
R72	墳丘・周溝・主体部 1〔組合せ式木棺直葬〕＜井ノ内 1 号墳〔方墳・一辺 12 m〕＞、竪穴建物 10、土坑、溝（後期）	詳細不明	詳細不明	長市報 44・市史資料編
R78	坂川流路	－	掘立柱建物（奈良）、溝（中世）	府セ概 3
R167	土坑（後期）	須恵器（TK209）	掘立柱建物群（奈良）	長七年 昭 59
R230	竪穴建物 1、溝、土坑（後期）	－	－	長七年 昭 61
R251	土坑 3、落込み 2、溝 2（後期）	須恵器（TK23～TK10）	掘立柱建物、土坑、溝（平安～中世）、溝（近世）	府セ概 30
R280	竪穴建物 2（後期）	詳細不明	掘立柱建物 2（飛鳥時代～奈良時代）、竪穴建物（弥生時代）	長七年 昭 62
R277・306	竪穴建物状遺構、溝（後期）	土師器、須恵器	掘立柱建物（長岡京）、溝（中世）	府セ概 34
R320	土坑 2（後期か）、ピット	土師器、須恵器	土坑（古代）	長七年 昭 63
R399	竪穴建物 1、溝 2、土器棺墓 1、土坑 1（後期中葉～後葉）	土師器、須恵器（TK10～TK209）	土坑、溝、柵列、柱穴（長岡京）、井戸、落ち込み状遺構、土坑、溝、柱穴（中世～近世）	長七年 平 4
R444	窪み 1（後期）	土師器、須恵器（TK10～TK43）	竪穴建物（弥生）、掘立柱建物（奈良）、掘立柱建物（長岡京）	長七年 平 5
R517	竪穴建物、溝、土坑、柱穴（後期）	須恵器、土師器	竪穴建物、土坑、溝（弥生）、溝、土坑、柱穴（長岡京）、土坑、柱穴（中世）	長七年 平 7
R538	竪穴建物 1（古墳時代～飛鳥時代）	須恵器（MT15）	掘立柱建物、落ち込み（奈良）、柱穴群、井戸（中世）	長七年 平 8
R558	竪穴建物 3、落ち込み 4、焼土坑 1（後期）、溝 2（古墳時代か）	土師器、須恵器（MT15～TK10）	掘立柱建物、ピット（中世）	長七年 平 8

桂川右岸地域における古墳時代集落の動向（3）

R615	竪穴建物 6（後期中葉）、掘立柱建物 2、柵（後期中葉以降）、土坑	土師器、須恵器、須恵質土馬	弥生後期に機能した溝状遺構、埋土上層に中世遺物とともに古墳時代の須恵器出土	府セ概 89
R668	竪穴建物 1、土坑 1、屋外炉 2（後期）	土師器、須恵器（TK10）	土器棺墓、土坑（縄文）、包含層（飛鳥時代～奈良時代）、溝、井戸（長岡京）、柱穴（鎌倉）	長セ報 21
R685	柱穴 2（飛鳥時代前後）	－	土坑（弥生）、掘立柱建物（長岡京）	長セ年 平 12
R753	土坑 1（TK209）、竪穴建物 1（TK43） 掘立柱建物 1（TK209 以降）	須恵器、土師器	道路側溝（長岡京）、区画溝（中世）	府セ概 107
R764	流路 1・落ち込み 1（前期）	土師器	流路（近世）	長セ年 平 14
R795	掘立柱建物、溝（MT15～TK209）	須恵器（MT15・TK43～217）	掘立柱建物、溝、土坑（平安）	府セ概 113
R801	竪穴建物 1、木棺墓（組合せ式箱形木棺）2、土坑 6、溝 2（後期）	土師器、須恵器（TK43～TK217）	溝（平安）、土坑、溝（中世）、溝、段差、柱穴列（近世）	長セ報 41
R952	第 2 トレンチで、竪穴建物 4（中期初～終末期）、遺物包含層（後期）、掘立柱建物 3（終末期）	須恵器、土師器	大溝（弥生後期）、掘立柱建物（奈良）	府セ報集 137
R966	竪穴建物（後期）	須恵器（TK209～TK217）、土師器	柱穴群（平安・鎌倉）、包含層（弥生）	長セ報 51
R994	竪穴建物 3（TK10～TK209）	須恵器	大溝（弥生後期）、掘立柱建物（平安）、掘立柱建物（中世）	府セ報集 143
立 84109	竪穴建物 2（後期）	不明	溝、井戸、土坑、ビット（長岡京）	長セ年 昭 59

今里遺跡・今里北ノ町遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
R 5	竪穴建物 1（後期後半）	須恵器（TK43）	土坑（弥生中期）、土坑（奈良）	長市報 12
R 7・12	土師器焼成遺構（中期後半）、竪穴建物（中期～終末期）、包含層（TK208～TK217）、掘立柱建物群 3（TK209 以降）	須恵器（TK208～TK217）、土師器（中期～後期）、かまど支脚、埴輪	土坑（弥生後期）、掘立柱建物、井戸、溝、轆（長岡京）	府埋概 1979
R26	竪穴建物 11（中期～後期前半）、今里車塚古墳周濠（前期末～中期初・平安時代まで周濠に水）	銅鏡、円筒埴輪、形象埴輪、木製品（今里車塚）、土師器、須恵器	掘立柱建物、溝、土坑、川跡、柵（平安）	府埋概 1980 - 2
R35	竪穴建物（時期不明）、河川跡（弥生～平安）	須恵器	－	長市報 12
R80・R86	竪穴建物 5（中期前 1・中期後半 1・後期中 2）	土師器（布留新・中期後半）、須恵器（MT15～TK10）	竪穴建物（弥生後期）、掘立柱建物、柵列（平安）	長市報 9
R83	土坑（布留新）、流路、土坑、溝（TK23・47～飛鳥）	土師器（布留新）、須恵器（MT15～TK10）	掘立柱建物（奈良）、掘立柱建物（平安）	府セ概 3・9
R110	－	須恵器（MT15～TK10）	溝、流路（長岡京）	府セ概 8
R195	竪穴建物 3、溝 2、土坑、柱穴（後期以前）、竪穴建物 2、土坑 5、溝 1、柱穴群（後期初頭）	土師器、須恵器、製塩土器	土器棺（縄文）	長セ年 昭 60
R223	竪穴建物 1・土坑 1（中期）、竪穴建物 2・土器溜まり（後期）	土師器、須恵器	竪穴建物（弥生後期）溝、掘立柱堀（平安）	長セ年 昭 60
R227	掘立柱建物 5・柵 1（後期）、竪穴建物 1（後期～飛鳥時代）	－	－	長セ年 昭 61
R280	竪穴建物 2（後期）	詳細不明	竪穴建物（弥生）、掘立柱建物 2（飛鳥～奈良）	長セ年 昭 62
R282	流路 1（弥生時代後～古墳時代前期）	土師器	－	長セ年 昭 62
R295	溝、柱穴（後期）	詳細不明	土坑、土器溜り、溝（弥生中期）	長セ年 昭 62
R310	竪穴建物 9、溝 1、土坑 2（後期）、柱穴、焼土塊（時期不明）	土師器（前期、後期）、須恵器（後期）、滑石製玉類、紡錘車（後期）	井戸（奈良）、轆、路盤改良遺構（長岡京）	府セ概 45
R318	－	車輪石（前期）、須恵器（後期～終末期）	溝、ビット（中世）	長市報 22
R323	流路 1（弥生時代中・後、古墳時代中期）	須恵器、土師器、埴輪	氾濫堆積（長岡京）	長セ年 昭 63
R335	土器溜まり 1、焼土層 1、柱穴（後期）	土師器（前期・後期）、須恵器（後期）、滑石製玉類・紡錘車（後期）	溝（長岡京）、流路（平安）、土坑（中世）、井戸（近世）	府セ概 45
R346	土坑 24（時期不明、粘土探掘坑か）	土師器、須恵器（TK208～TK10）、製塩土器	柵 1、溝 2、土坑 1、柱穴（飛鳥）、水田（中世）	長セ年 平元
R356	土器埋納坑（前期）	土師器	溝（長岡京）、堀、井戸、橋脚（中世）	長セ年 平 2
R360	開析谷（弥生～奈良）の肩部	土師器、須恵器（TK10～TK43）	落ち込み（～奈良）、溝、土坑（中世）	長市報 27

R362	溝 16 (時期不明、畑作遺構か)	土師器、須恵器、埴輪片	溝、土坑 (弥生)、掘立柱建物、池状遺構 (長岡京)	長七 年 平 2
R375	掘立柱建物 1 (終末期)、落ち込み 1 (後期後葉～終末期)、堅穴建物 2 (後期中葉)、包含層 (後期前半)	須恵器 (TK47～TK209)、土師器	落ち込み (長岡京)、落ち込み (平安)、掘立柱建物 (中世)	長七 年 平 3
R386	方形周溝墓 1、流路 1 (時期不明)	詳細不明	方形周溝墓 (弥生)、溝 (奈良)、側溝、掘立柱建物、土坑、溝、橋 (長岡京)	長七 年 平 3
R407	流路 1 (前期)、流路 (後期)	詳細不明	土坑、掘立柱建物、区画溝、柱穴 (平安)	長七 年 平 4
R412	溝 1 (後期)	詳細不明	溝、轍 (長岡京)	長七 年 平 4
R500	柵 1、柱穴 (後期～終末期)	土師器、須恵器	溝、土坑 (中世)	長七 年 平 7
R517	堅穴建物、溝、土坑、柱穴 (後期)	須恵器、土師器、滑石製玉類	溝 (長岡京) 土坑、柱穴 (中世)	長七 年 平 7
R518	溝 (時期不明)	不明	流路 (奈良～平安)、掘立柱建物、溝 (中世)	長七 年 平 7
R544	溝 1 (中期)、土坑 1 (時期不明)	土師器、須恵器 (TK73～TK23)	溝・土坑・柱穴 (飛鳥時代～奈良時代)	長七 報 8
R557	土坑 2・溝 1 (後期)	須恵器 (TK10)	土坑、溝 (中世)	長七 年 平 8
R582	周濠 (中期前葉)、柱穴 (後期)	埴輪 (3期)、木製品、須恵器 (TK10～TK217)	溝 (長岡京)	長 市 報 38 長 市 報 39、長 七 年 平 9
R598	合わせ口土器棺墓 1 (時期不明)、掘立柱建物 (後期末～終末期)	土師器、須恵器 (TK208～TK217)	土坑群 (奈良)	長七 年 平 10
R650	土坑 2・堅穴建物 1 (前期)、土坑 2、溝 1 (後期)、堅穴建物 1、溝 1、柱穴 (時期不明)	土師器、須恵器	堅穴建物、土坑 (弥生)、柵、土坑 (奈良)、溝、柵 (長岡京)、井戸、溝、土坑 (中世)	長七 報 17、 長七 報 19
R653	堅穴建物 3 (うち 1 が TK208、TK208 の建物には貯蔵穴が伴う)	土師器、須恵器、滑石製玉類	大型掘立柱建物、土坑 (奈良)、土坑墓、溝 (中世)	長 市 報 41
R701	堅穴建物 3、掘立柱建物 4、流路 1 (後期)	土師器、須恵器	溝、柱穴、土坑 (平安)、溝、落ち込み (中世～近世)	長七 年 平 13
R711	堅穴建物、土坑 (中期以降)	須恵器 (TK47)、土師器 (中期以前)	土坑 (中世)、溝、土坑 (近世)	長 市 報 43
R716	堅穴建物 1 (前期～中期)	土師器、円筒埴輪	土坑 (中世・近世)	長七 報 23
R740	落ち込み 1 (前期～中期初頭)	土師器、圓い形埴輪 (3期)、須恵器 (TK10)	土坑、溝 (長岡京)、土坑、溝 (中世)	長七 報 27
R760	開析谷 1 (弥生時代～古墳時代)	土師器	土坑 (弥生中期)、溝、土坑、井戸 (近世)	長七 年 平 14
R818	土坑 (弥生後期末～初頭)	土師器	－	長七 年 平 16
R832	土坑、今里車塚古墳周濠 (前期末～中期中)、堅穴建物 (後期)	土師器、須恵器 (TK23・TK43～TK217)	流路 (～縄文)、土坑 (弥生)、掘立柱建物 (奈良)、掘立柱建物、土坑、溝 (長岡京)	長七 年 平 16
R958	堅穴建物 (後期)、土坑	土師器、須恵器、鉄製品、製塩土器、フイゴ羽口	掘立柱建物 (奈良)、掘立柱建物、溝、(長岡京) 溝 (中世)	長七 年 平 20

陶器町遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
R85	溝 1 (後期以前)、堅穴建物 1・焼土面 1 [竈か] (後期)	－	－	長 市 報 5
R105	周濠、陸橋、周庭帯溝 1 < 舞塚 1 号墳 [帆立貝式古墳・全長 39 m] >・周溝 < 舞塚 2 号墳 [円墳・直径 15 m] >・堅穴建物 2 (後期)	人物埴輪、円筒埴輪	流路 (飛鳥～奈良)、掘立柱建物、道路側溝 (長岡京)、溝 (弥生)、井戸、土器溜り (中世)	府 ゼ 概 8
R140	土坑 1 (後期)	－	－	長七 年 昭 58
R265	堅穴建物 3 (後期)	須恵器、土師器	溝 (長岡京)	長 市 報 20
R424	溝、土坑、掘立柱建物、柱穴 (後期)	須恵器 (MT15・TK10・TK209)	溝 (弥生後期)	長七 年 平 4
R551	土坑 1 (中期)、堅穴建物 1 (後期)、土器溜まり (時期不明)	滑石製紡錘車、土師器、須恵器	火葬土坑 (中世)、柱穴、溝	長七 年 平 8

開田古墳群

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
R496	方墳周溝、土墳墓2、溝、竪穴建物 か1（後期）	鉄製武器、工具（土墳墓副葬品）、 須恵器	土墳墓	長市報7、長 七年 平7
R82103	土墳墓1（後期）	須恵器（TK10）	溝（長岡京）	長七年 昭57
R911	竪穴建物1（後期末）	不明	方形周溝墓、土器棺墓（弥生中 期）、土坑（長岡京）、溝、井戸（近 世～近代）	長七年 平19
R995	方墳（中期後葉）	土師器、須恵器	土坑（長岡京）、土坑、溝（中世）	府セ報集 142

開田遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
R11				長市報5
R23	竪穴建物、掘立柱建物（後期）	詳細不明	詳細不明	市史資料編1
R38	溝（後期）	詳細不明	詳細不明	市史資料編1
R96	溝（後期）	須恵器、土師器、土製品、埴輪	道路側溝、溝、轍（長岡京）	長七報1
R268	流路1、土坑2（中期）	須恵器、土師器	包含層（長岡京）、土坑（平安）	長七年 昭62
R364	竪穴建物（前期中葉～前期後葉）、流 路（竪穴建物に切られる）	土師器	礫敷遺構、井戸、掘立柱建物（中 世）	長市報27
R379	溝1（中期）、掘立柱建物1、溝1（後 期）	土師器（中期）、須恵器（TK10）	掘立柱建物（長岡京）、土坑、溝、 氾濫堆積（中世）、溝、杭列群（近 世）	長七年 平3
R410	流路3（古墳時代か）	埴輪	溝（長岡京）	長市報31
R427	溝1（時期不明）	詳細不明	落ち込み、土坑、ピット（縄文 ～弥生）	長七年 平4
R559	流路1（後期）	須恵器（TK23～TK10）	土坑（弥生）、溝（長岡京）、落 ち込み（平安～中世）	長七年 平8
R667	流路1（前期・中期・後期、長岡京期）、 土坑3（前期後半～後期初頭）	土師器（前期～中期中頭）、須恵器 （TK10～TK217）	土器埋納土坑（長岡京）	長七年 平11
R675	流路1（縄文時代後～古墳時代前期）	土師器	道路側溝、柵（長岡京）	長市報42
R688	流路1（後期）	不明	井戸、柵、土坑、門、道路側溝（長 岡京）	長七年 平12
R713	溝1、流路状落ち込み1	土師器、須恵器（後期初頭）	掘立柱建物、溝、石組み、石敷 き（長岡京）	長七年 平13
R752	土坑、流路（弥生～古墳）	須恵器	道路側溝（長岡京）、包含層（縄 文後期～弥生）	長七年 平14
R909	遺物包含層（後期後半）、同層下層に 溝	須恵器、土師器	畦畔、溝、ピット（中世・近世）	府セ報集126
R951	区画溝、塚本古墳周濠	須恵器	条坊側溝、門（長岡京）	長七報52

開田城ノ内遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
R81	井戸（中期後半）、包含層、土坑（後 期中葉）、掘立柱建物（後期中葉）	須恵器、製塩土器、土師器	溝、土坑、ピット（中世）	長市報9
R90	溝（方形周溝墓の周溝か、前期前）、溝、 土器棺墓（中期後半）、竪穴建物1（後 期）	土師器、須恵器	掘立柱建物、柵、溝（奈良）、 溝（長岡京）	長市報9
R370	竪穴建物1、掘立柱建物3、土坑9、 溝2、柱穴（時期不明）	土師器、須恵器、製塩土器、鉄滓	掘立柱建物、側溝（長岡京）、掘 立柱建物（奈良時代）	長七年 平3
R441	竪穴建物6（前期）、竪穴建物1（後期）	水鳥形土製品（前期）ほか	竪穴建物（弥生後期）、掘立柱建 物（奈良）、掘立柱建物、柵（長 岡京）、溝（近世）	長七年 平5
R447	竪穴建物（時期不明）	須恵器（後期）	掘立柱建物、柵列、炉跡群（長 岡京～）	長市報32
R460	土坑3、落ち込み1（中期）、土坑3 （後期）、溝2（後期～飛鳥）	土師器、須恵器（TK209～TK217）	土器棺墓（縄文晩期）、溝（奈良）、 溝（中世）	長七年 平5
R474	溝1（後期）	—	—	府セ概66
R498	溝1（前期）、流路1（古墳時代後期 ～長岡京期）	土師器（前期）、須恵器（TK209）	掘立柱建物、溝（長岡京）、掘立 柱建物（中世）	府セ概70
R528	柵4、掘立柱建物1（飛鳥～奈良）	土師器、須恵器、製塩土器	柱穴（中世）	長市報36、 長七年 平8
R620	溝1（前期）	土師器	柱穴、土坑（奈良）、掘立柱建物（長 岡京）	府セ概88

R623	井戸 1、溝 2（後期）、土坑 1、溝 1（時期不明）	土師器、須恵器（TK209）	溝、柱列（長岡京）、溝（中世）	長七 年 平 10
R635	竪穴建物 3、溝 1、井戸状遺構 1（前期・布留 2）	土師器	掘立柱建物、柵、土坑（平安）	府セ概 90
R651	竪穴建物 1（後期）	土師器、須恵器	溝（弥生）、掘立柱建物（奈良）、道路側溝、掘立柱建物、落ち込み（長岡京）、土墳墓（中世）	長七 年 平 11
R671	竪穴建物 2（前期）、流路 1（中期末～後期）、土坑 1（時期不明）	土師器（庄内・後期）、須恵器（MT15～TK217）	流路、土坑（縄文）、溝、柱穴群（中世）	長七 年 平 12
R673	溝 1、落ち込み 1（時期不明）	須恵器	溝、ピット（長岡京）、溝（中世）	長七 年 平 12
R790	土坑、柱穴（後期か）	不明	竪穴建物（弥生後期）、掘立柱建物（飛鳥～奈良）、掘立柱建物（長岡京）、掘立柱建物、柵、井戸、土坑（中世）	長七 年 平 15 長セ報 46
R1011	柱穴	土師器、須恵器	ピット（長岡京～中世）	長市報 59
R1012	－	－	－	長七 年 平 22
立 91132	竪穴建物 1、土坑 1	須恵器（中期以降）	土坑（弥生後期）、掘立柱建物（奈良）、道路側溝、土坑（長岡京）、溝、土坑（中世）	長七 年 平 3
立 83052	竪穴建物 1（後期）	土師器、須恵器	－	長七 年 昭 58
立 87052	落ち込み 1（弥生時代～古墳時代中期）	詳細不明	－	長七 年 昭 62

東代遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
R191	竪穴建物（後期末、一辺 3.7m）	須恵器、土師器	掘立柱建物 4（奈良時代）	長七 年 昭 60

谷田遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
谷田 2 次	竪穴建物 2（前期）、竪穴建物 1、土坑 1（後期）	須恵器（MT15）、土師器	溝（近世）	長七 年 平 8

海印寺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
海印寺跡 1 次	土器溜り、柱穴（後期）	－	溝（近世）	長市報 29

長岡京跡（上記以外）

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
R337	流路 2（弥生後期～前期）	土師器	流路（縄文～弥生）、水田（中世）	長七 年 平 元
R672	流路 1（後期）	－	掘立柱建物（長岡京）	長七 年 平 12

第 5 図

西代遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
西代 1 次	包含層	須恵器	－	長市報 55

鈴谷遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
鈴谷 1・2 次	土坑・ピット（後期中～後半）、横穴式石室（終末期）	土師器、須恵器、製塩土器	ピット（長岡京）	府セ報集 149

下海印寺遺跡・西山田遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
R354（下海印寺第 12 次）	横穴式石室義道か（後期）	須恵器、土師器	掘立柱建物、土坑（平安）	長七 年 平 2

桂川右岸地域における古墳時代集落の動向（3）

R799	－	須恵器（TK10～TK209）	土坑（縄文）、溝（平安）	府セ概 113
R842 （下海印寺第 21次）	土坑（庄内期）、竪穴建物（前期）	土師器、須恵器（TK10～TK217）	土坑、流路（弥生）、掘立柱建物、 柱穴、流路、溝（奈良～平安）、 井戸、流路、溝（近世）	府セ概 118
R847	包含層（後期末）	須恵器	掘立柱建物（奈良）、掘立柱建物 （平安）、掘立柱建物、溝、土坑（中 世）	長セ年 平 16
R851 （下海印寺第 22次）	菩提寺川・小泉川の流路、古墳時代の埋没流路	土師器	流路（弥生中期～庄内期）	府セ概 124
R862 （下海印寺第 24次）	竪穴建物 4（MT15～TK10）、旧 河川の可能性のある溝（後期）	土師器、須恵器	土器溜り（弥生後期）、柱穴群（古 代・中世）	府セ概 124
R870	溝、土坑 2	土師器、須恵器	中世の溝、護岸施設、井戸、水田 として利用可	府セ報集 126
R899	竪穴建物、土坑、土器溜り（MT15 ～TK43）	土師器、須恵器、製塩土器、紡錘車	配石遺構、土坑、落ち込み（縄文）、 溝、土坑、柱穴（中世）	長セ年 平 19
R957	流路（弥生後期末～初頭）、土坑群、 流路（中期後半～後期）、掘立柱建 物（後期）	土師器、須恵器	溝（中世）	府セ報集 137
R962	竪穴建物 5、土坑	土師器、須恵器、製塩土器、韓式系 土器	土坑群、土器埋設遺構（縄文）、 柱穴群、溝、土坑（平安～中世）	長セ年 平 20
R970・1007・ 1024	竪穴建物 1、土坑 2（弥生後期末～ 初頭）、竪穴建物 10、土坑、溝（後期）	近江・東海系、北近畿系を含む土師 器（庄内前半）、須恵器、紡錘車	溝、掘立柱建物、柵列、土坑（長 岡京～平安）、堀、掘立柱建物、 柵列、道路状遺構（中世）、溝、 土坑（近世）	府セ報集 150
R973	竪穴建物 2、掘立柱建物 1（後期・ 掘立柱建物は R957 の建物の続き）、 土坑 3、溝 2（後期）、貯蔵穴？（後期）	土師器、須恵器、石錐、滑石製玉類	縄文後期、弥生後期、奈良時代の 遺構遺物	府セ報集 142
R982	竪穴建物（後期）	製塩土器、土師器	溝、土坑、ピット（中世）	長セ年 平 21
R1017	土坑（竪穴建物の可能性、TK10）	土師器、製塩土器、須恵器	土坑（中近世）	長セ年 平 22
下海印寺第 1・ 2次	竈付き竪穴建物 1、土坑（TK43）	土師器、製塩土器、須恵器	土坑、集石遺構（縄文後期）	長市報 10
下海印寺第 13 次	竪穴建物 1（後期）	須恵器	－	長セ年 平 2

伊賀寺遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
R324	竪穴建物 1（後期後葉）	詳細不明	柱穴、土坑（平安）、ピット、土坑（中 世）、溝、柵列（近世）	長セ年 昭 63
R890	竪穴建物 2（中期前葉）、竪穴建物 3（後期中葉）、流路（後期初頭～ 後期末）	土師器、須恵器、フイゴ羽口、鉄滓	溝、水田（中世）	府セ報集 126
R901	流路（弥生後期末～初頭）、木製品、 加工木の集中か所で出土、後期の流 路も	庄内期土器（東海系、北近江系、生 駒西麓産、摂津もしくは播磨系、近 江系と畿内系の折衷土器含む）、木 製品	－	府セ報集 131
R902	多角形建物 1、土坑 2（弥生後期末）	須恵器、土師器	流路（長岡京）、流路（近世）	府セ報集 131
R910	竪穴建物（終末期）	須恵器（TK217）、土師器	掘立柱建物多数（長岡京～平安）	府セ報集 133
R927	落ち込み状遺構（初頭）、竪穴建物 1、 同残欠、土坑（後期中葉）	須恵器（MT15～TK10）	竪穴建物（縄文中期末）、中期末 から後期後葉の土坑、（縄文中期 末～後期後葉）、区画溝、柱跡（長 岡京）	府セ報集 136
R937	流路（弥生後期末～初頭）、土坑群（中 期後半～後期、粘土採掘坑か、流路 沿いでの祭祀）、流路	土師器、須恵器	流路（縄文）、竪穴建物（弥生）、 溝（中世）	府セ報集 137
R941	竪穴建物 8、掘立柱建物 1（後期中 葉）	須恵器（TK10～TK43）	竪穴建物（縄文中期末～後期）、 溝（長岡京）	府セ報集 137
R943	竪穴建物 1、土坑 2（初頭）、溝（後 期中葉）	須恵器（TK10）、土師器（庄内）	竪穴建物、土坑墓、火葬墓（縄文 後期）	府セ報集 133

R947	竪穴建物 1（弥生後期末）	弥生土器（庄内前期）、土師器（中期）	土坑（縄文）	府セ報集 137
------	---------------	--------------------	--------	----------

友岡遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
R70	竪穴建物 7、土坑 1（後期後半～終末期）	須恵器	掘立柱建物（中世）	長市報 9
R88	竪穴建物 1（後期）	土師器	池状遺構、溝（中世）	長セ報 1
R95	旧河道（飛鳥～奈良、奈良前期に埋没か）	須恵器、土師器	旧河道（奈良）、井戸（近世）	長セ報 1
R420	竪穴建物、土坑（飛鳥）	須恵器、土師器	柵列、掘立柱建物（奈良）	長セ年 平 4
R430	竪穴建物 1、溝 4（後期）	須恵器、土師器、土製品	掘立柱建物、柵（奈良時代）、掘立柱建物、ピット（平安時代）	長セ年 平 5
R624	竪穴建物 6（前期）、掘立柱建物 1、柵、土坑、流路、柱穴	不明	竪穴建物 13、土坑 20、柱穴多数、溝 3、沼（弥生中期～後期前半）	長セ年 平 10

南栗ヶ塚遺跡

次数	遺構概要	主な遺物	その他の遺構	報告書
R94	流路（弥生～長岡京）	須恵器（TK73）	柵列、掘立柱建物、土坑（長岡京）	長セ年 昭 57 長市報 11
R438	土坑 2・落ち込み 1（中期）	土師器（中期中葉）	土坑（平安）	長セ年 平 5
R473	土坑 3（弥生時代後～初頭）	土師器（庄内）、形象埴輪	掘立柱建物、溝（長岡京～平安）、ピット、不定形土坑（中世）	長セ年 平 6
R659	流路 1（弥生時代後～前期）	不明	土坑群（弥生後期）、土坑（中世）	長セ年 平 11
R690	土壇墓 2（初頭）	土師器（庄内）	土坑、溝（中世）	長セ年 平 12
R712	落ち込み 1（後期）	須恵器、土師器	－	長セ年 平 13
R768	包含層から庄内式土器出土。	土師器	土坑、柱穴、溝、掘立柱建物（中世）	長セ年 平 15

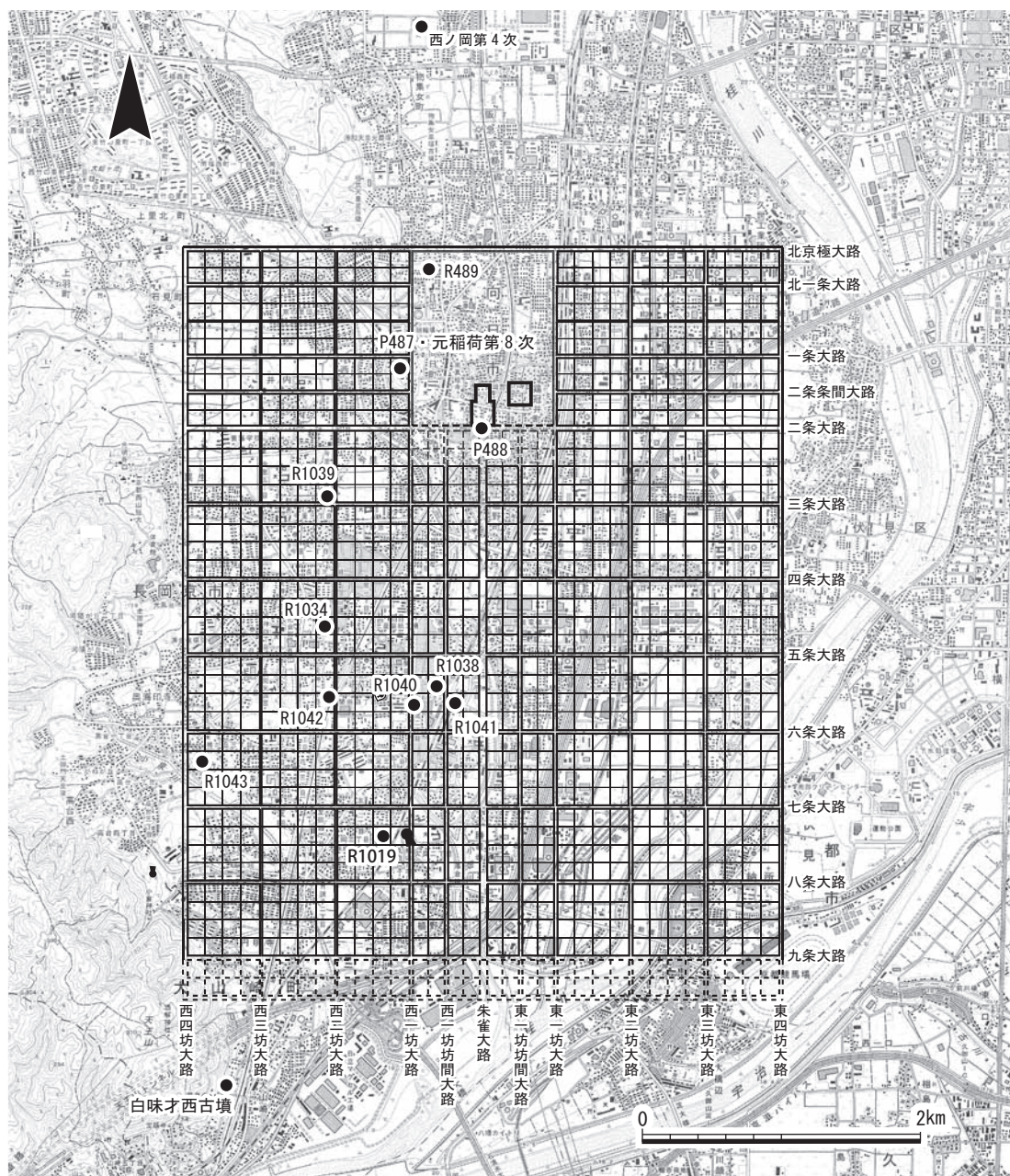
※遺構の時期区分については、弥生時代後期末を（庄内 2・3 期）、古墳時代初頭を（庄内 4 期）、前期を（布留 1～2）、中期を布留 3 期～TK208 型式期、後期を TK23～TK209 型式期、終末期を TK217 型式期以降とする。それ以外の時期の表記については、各報告の記載内容を尊重した。

※報告書の略号は、向日…向日市埋蔵文化財調査報告書、京埋研概…京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報、京埋研報…京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告、府埋概…京都府埋蔵文化財調査概報、府セ概…京都府遺跡調査概報、府セ報集…京都府遺跡調査報告集、長研報…長岡京跡発掘調査研究所調査報告書、市史資料編…長岡京市史資料編、長連協…長岡京連絡協議会資料 を示す。

※立会調査の略号については、向日市、長岡京市の各機関のルールを尊重し、向日市の立会調査は長岡京内の宮（P）、右京（R）、左京（L）、長岡京市の立会調査は地点に拘わらず（立）の略号を用い、西暦と立会調査次数を示す 4～5 桁の次数を示している。

長岡京跡調査だより・114

長岡京跡発掘調査の情報交換および資料の共有化を図り、長岡京跡の統一的な研究に寄与することを目的として、毎月1回、長岡京域で発掘調査に携わる機関が集まり長岡京連絡協議会を実施している。平成24年2月から5月の例会では、宮域3件、右京域8件、京域外2件の合計13件の調査報告があった。その中で、主要な事例について報告する。



調査地位置図（1/50,000）

（向日市文化財事務所・（公財）向日市埋蔵文化財センター作成の長岡京条坊復原図を基に作図）

調査地はPが宮域、Rが右京域、Lが左京域を示し、数字は次数を示す。

宮域 元稲荷古墳第8次調査(宮第487次調査・向日市向日町)では前方部西側面の形状と裾の位置、墳丘の遺存状況を確認するための調査が実施された。調査の結果、前方部の形状は「バチ形」ではなく、くびれ部から直線的に開いていることが明らかになった。第488次調査(向日市上植野町)は長岡宮「翔鸞楼」の東側にあたり、翼楼に囲まれた広場の部分である。「翔鸞楼」の東側に広がる瓦落ちの検出が期待されたが、長岡京期と考えられる柱穴が2基確認されたのみであった。

右京域 右京第1019次調査(長岡京市調子)では、調査の全容が明らかになった。長岡京期～平安時代については甕据え付け穴をもつ建物をはじめとする掘立柱建物や溝、井戸、土坑が検出された。甕据え付け穴をもつ建物は長岡京期のもので、醸造施設と考えられる。井戸のうち1基には縦板組隅柱横棧留の井戸杵が残っていた。調査地内には八条条間小路と西二坊坊間東小路が想定されたが条坊側溝は検出されなかった。このことから少なくとも2町以上の宅地利用が想定される。平安時代の遺構については第3次山城国府との関連が検討されている。戦国時代の堀は幅4m、深さ2～3m、検出長68mの南北方向の堀である。山崎合戦の時、調査地東にある恵解山古墳に明智光秀の本陣が築かれたことなどから同時期の遺構と考えられている。調査地北部の堀底で掛矢と木簡3点が出土した。堀の掘削工事に伴う遺物が工事途中で廃棄された可能性がある。この堀の西側では、井戸と溝を組み合わせ、土管を埋設した江戸時代の灌漑施設が確認された。右京第1038次調査(長岡京市神足)では、長岡京期の掘立柱建物や溝、土坑などを確認し、鉄滓・フイゴ羽口など鉄製品生産に係る遺物が出土した。また、古墳の周溝と考えられる大溝や近世神足館足軽町の遺構群(掘立柱建物・堀、井戸、溝、土坑など)も確認された。右京第1040次調査(長岡京市神足)では近世の柵列や地境溝が確認され、陶磁器のほか伏見人形や面子が出土した。

京域外 西ノ岡遺跡第4次調査(向日市物集女町)では流路を1条確認し、弥生時代後期～古墳時代の遺物が出土した。特に古墳時代の遺物は量も多く注目される。白味才西古墳(大山崎町)は、開発に伴う事前調査で新たに確認された古墳である。古墳は、一辺約10mの方墳で、埋葬施設は横穴式石室である。石室の全長は約5.7mで、石室内出土遺物から7世紀中頃に築造されたと考えられる。周辺に分布するこの時期の集落遺跡には百々遺跡、算用田遺跡、松田遺跡、下植野南遺跡などがあり、同古墳はこれらの集落に住む人々によって造られたと想定される。

(松尾史子)

普及啓発事業(3月～6月)

当調査研究センターでは、埋蔵文化財発掘調査の成果を広く府民の皆様に報告し、地域の歴史を理解していただくため、埋蔵文化財セミナー・小さな展覧会・出前授業(体験学習)等の普及啓発活動を行っています。

埋蔵文化財セミナー

第121回埋蔵文化財セミナーを、平成24年6月30日(土)に、南丹市園部公民館大研修室で、「発掘された南丹波地域の歴史－近年の調査成果から－」と題して実施しました。

当調査研究センターの高野陽子調査員から「古代・中世の土地開発－室橋遺跡・野条遺跡ほかの調査から－」と題して報告があり、近年、亀岡盆地において大規模なほ場整備に伴い実施された埋蔵文化財の調査の中から、盆地北部に位置する室橋・野条遺跡等の成果を用いて、原始・古代から中世に至る当地域の土地開発の姿を復元しました。なかでも、中世前期の大規模な直線溝について、文献・伝承も加味して、分析を加え、灌漑用水路の開削を伴う荘園開発の様子を紹介しました。

続いて、当調査研究センターの引原茂治主任調査員、加藤雅士調査員から「戦国時代から江戸



第121回埋蔵文化財セミナー(於：南丹市)

時代の城へー三ノ宮東城跡・園部城跡ほかの調査から－」と題して、応仁の乱以降、乱世の戦国時代から天下泰平の江戸時代にかけての城館の変遷を概観した上で、丹波地域における調査研究の事例をいくつか提示しました。後段では平成22・23年度にかけて山城のほぼ全域を調査した三ノ宮東城跡の成果について、紹介しました。

また、南丹市教育委員会の辻健二郎係長からは「南丹市内の城館跡－小山館跡ほかの調査から－」と題して、規模の大きな堀と土塁が調査されて話題を集めた小山館跡の調査成果、及び、小畠氏の居館と伝えられた穴人城跡の踏査の状況を写真を交えて紹介し、これを踏まえうえで、南丹市域の城館を総覧し、併せて屋敷内部の構造に言及し、園部城の性格について考察を加えました。



第121回埋蔵文化財セミナー(於：南丹市)

当日は、開催中に雨が降り出すあいにくの天

候でしたが、72名の参加者を得て、盛況裏に終えることができました。

関係者説明会

平成24年5月17日(木)に関係者および地元説明会を植物園北遺跡(京都市)で開催しました。

府立植物園の東に面した地点において、新総合資料館(仮称)・教養教育共同施設(仮称)の建設に伴い平成23年11月から調査を開始し、その中間報告として成果を公開しました(詳細は本号参照)。調査は緒についたばかりですが、奈良時代～平安時代前期の建物跡(掘立柱建物・金属工房としての竪穴建物)や土器棺墓などが検出されるなど、周辺での既往の成果を補う内容の遺構・遺物が確認されています。80名の方が現地に足を運ばれ熱心に見学されました。



植物園北遺跡関係者説明会



植物園北遺跡関係者説明会

出前授業

平成24年4月26日(木)に、京都市立修学院小学校の6年生児童112名、教員3名を対象に出前授業を実施しました。

社会科歴史学習の一環として、地域の歴史についての理解をすすめることを目的として、当調査研究センター小池寛調査第2課課長補佐を講師に「修学院学区における縄文時代の暮らしについて」を演目テーマとして映像を交えた講義を実施しました。

授業の中では、教科書から離れ、児童が住んでいる地域の遺跡などに焦点をあて、古墳時代までを身近に感じてもらえるように講義しました。特に、縄文時代の平均寿命や成人年齢、家族構成などから「生と死」が身近にあったことを示し、「命」の大切さを教えました。

(伊賀高弘)



修学院小学校出前授業



修学院小学校出前授業

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター組織および職員一覧

(平成24年7月1日現在)

評 議 員	事 務 局 長	小池 久
芦田富男	副 局 長	安田正人
(長岡京市教育委員会教育長)	総 務 課	安田正人(兼)
奥原恒興	課 長	杉江昌乃
(京都府商工会議所専務理事)	課長補佐	今村正寿
佐々木丞平	総務係長	鍋田幸世
(京都国立博物館長)	主 事	葛本慎太郎
	主 事	水谷壽克
	調査第1課	岸岡貴英
	課長補佐	岸岡貴英(兼)
理 事 長	企画係長	伊賀高弘
上田正昭	主査調査員	岸岡貴英(兼)
(京都大学名誉教授)	資料係長	田中 彰
常務理事	主任調査員	松尾史子
小池 久	調 査 員	小山雅人
理 事	副 主 査	水谷壽克(兼)
中尾芳治	課 長	石井清司
(恭仁宮跡調査専門委員会委員長)	主 幹	小池 寛
石野博信	課長補佐	小池 寛(兼)
(兵庫県立考古博物館長)	調査第1係長	引原茂治
井上満郎	主任調査員	中川和哉
(京都産業大学名誉教授)	主任調査員	黒坪一樹
都出比呂志	専門調査員	柴 暁彦
(大阪大学名誉教授)	主査調査員	高野陽子
中谷雅治	調 査 員	加藤雅士
(元京都府教育庁指導部理事文化財保護課長事務取扱)	調 査 員	牧田梨津子
高橋誠一	調 査 員	岩松 保
(関西大学文学部教授)	調査第2係長	伊野近富
増田富士雄	次席総括調査員	竹原一彦
(京都大学名誉教授)	主任調査員	増田孝彦
上原真人	主任調査員	石尾政信
(京都大学大学院文学研究科教授)	専門調査員	岡崎研一
磯野浩光	専門調査員	古川 匠
(京都府教育庁指導部文化財保護課長)	調 査 員	石井清司(事務取扱)
監 事	調査第3係長	田代 弘
清水浩平	次席総括調査員	戸原和人
(社団法人全国国宝重要文化財所有者連盟庶務部長)	主任調査員	奈良康正
小橋秀生	調 査 員	筒井崇史
(京都府教育庁管理部長)	調 査 員	村田和弘
	調 査 員	関廣尚世
	調 査 員	大高義寛
	調 査 員	山崎美輪

センターの動向

(平成24年3月～6月)

月 日	事 項
3 2	美濃山廃寺ほか(府道)発掘調査終了(8/8～) 美濃山廃寺ほか(八幡市)発掘調査終了(10/3～)
4	スライドでみる乙訓の発掘(於：長岡京市)増田孝彦主任調査員派遣
7	公益法人セミナー(於：大阪市)杉江昌乃総務課課長補佐、今村正寿総務係長参加
23	第3回理事会(於：ルビノ京都堀川)上田正昭理事長、小池久常務理事、中尾芳治・石野博信・井上満郎・都出比呂志・増田富士雄・磯野浩光各理事、清水浩平監事出席
4 2	採用職員辞令交付(別掲)
5	職場研修「平成24年度の人権に関する係目標と個人目標の設定と発表」
6	植物園北遺跡(京都市)発掘調査開始
19	松井横穴群ほか(京田辺市ほか)発掘調査開始
23	木津川河床遺跡(八幡市)発掘調査開始
25	長岡京連絡協議会(於：当センター)
26	京都市立修学院小学校出前授業(於：京都市)小池寛調査第2課課長補佐兼第1係長派遣
5 7	石田城跡ほか(与謝野町)発掘調査開始
17	植物園北遺跡(京都市)関係者説明会(参加者：80名) 長岡宮跡(向日市)発掘調査開始 平成24年度第1回全国埋蔵文化財法人連絡協議会役員会(於：福岡県)小池久常務理事・事務局長、安田正人副局長兼総務課長出席(～5/18)
24	長岡京連絡協議会(於：当センター) 出屋敷遺跡(木津川市)発掘調査開始 平安宮跡ほか(京都市)発掘調査開始
6 4	監事監査(補助監査：当センター)
7	監事監査(監査・講評)
12	第4回理事会(於：ルビノ京都堀川)上田正昭理事長、小池久常務理事、中尾芳治・石野博信・井上満郎・都出比呂志・中谷雅治・上原真人・磯野浩光各理事、清水浩平・橋本幸三監事出席
13	企業内人権啓発推進研修会及び学卒求人説明会、京都府企業内人権問題啓発セミナー(於：京都テルサ)安田副局長兼総務課長参加
21	第33回全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会(於：千葉県)小池久常務理事・事務局長、安田正人副局長兼総務課長出席(～6/22)

- 27 第2回評議員会(於：ルビノ京都堀川) 芦田富男・奥原恒興・宮野文穂各評議員
出席、評議員・監事の辞任及び就任(別掲)
長岡京跡連絡協議会(於：当センター)
木津川河床遺跡(八幡市)発掘調査開始
- 29 全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロックO A委員会(於：滋賀県)松尾史子
調査員出席
- 30 第121回埋蔵文化財セミナー(於：南丹市園部公民館)参加者72名

(別 掲)

月 日	事	項
4 1	関廣尚世	調査第2課調査員(雇用期間付採用)
	大高義寛	調査第2課調査員(雇用期間付採用)
	牧田梨津子	調査第2課調査員(雇用期間付採用)
	山崎美輪	調査第2課調査員(雇用期間付採用)
	小山雅人	調査第1課副主査(再雇用)
6 27	橋本幸三	(京都府教育庁次長)理事辞任
	宮野文穂	(京都府図書館長)評議員辞任
	佐々木丞平	(京都国立博物館長)評議員就任
	小橋秀生	(京都府教育庁管理部長)監事就任

編集後記

この春は、桜の開花が遅く、また季節外れの台風上陸や、梅雨期の豪雨による被害が広範囲に広がるなど、季節の進行が例年になく激しい状況が続いておりました。しかし暦は着実に時を刻んでおり、京都では祇園祭とともに本格的な夏が到来しました。

ここに、情報 118 号が出来上がりましたので、お届けします。

本号では、平成 23 年度の京都府内の埋蔵文化財の調査を振り返ってその概要を報告するとともに、当調査研究センター職員による論考を 2 編掲載いたしました。いずれも前号の続編で、1 本は本号をもってひとまず完結します。併せてご覧ください。

(編集担当 伊賀)

京都府埋蔵文化財情報 第118号

平成 24 年 8 月 31 日

発行 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

〒 617-0002 向日市寺戸町南垣内 40 番の 3

Tel (075)933-3877(代) Fax (075)922-1189

<http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

印刷 三星商事印刷株式会社

〒 604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下ル

Tel (075)256-0961(代) Fax (075)231-7141



KYOTO
ARCHAEOLOGY CENTER